

令和4年度

事業報告書

1. 法人事業報告書
2. 施設事業報告書

社会福祉法人 恵の園

令和4年度

法人事業報告書

社会福祉法人 恵の園

目 次

1. 令和4年度総括報告（1年を振り返って）	1
2. 法人役員、評議員、運営協議会委員	5
3. 理事会開催状況	6
4. 評議員会開催状況	7
5. 運営協議会開催状況	8
6. 内部監査結果	8
7. 法人借入金償還状況	8
8. 職員人事異動状況	8
9. 職員配置状況	9
10. 施設利用者状況	9
11. 補助金による助成物件	11
＜総務部＞	
(1) 庶務・経理係	13
(2) 固定資産管理係	14
＜人事部＞	
(1) 人材育成係	16
(2) 採用係	18
(2) 安全衛生委員会	19
(3) 交通安全係	20
＜その他の係＞	
(1) 防災・防犯係	21
(2) 広報係	23
(3) 地域福祉係	24
(4) 支援向上委員会	25
(5) 公益的取り組み	26

1. 令和4年度総括報告（1年を振り返って）

（1）運営全般

「今年もより良く！」を年間スローガンとして掲げていたが、知的入所施設で、昨年7月に「虐待事件」が発生してしまった。群馬県の指導監査課や障害政策課にも指導や助言をいただきながら、事件の検証と発生防止の取り組みを行なったが、まだ十分とは言えず令和5年度も引き続き改善を進めている状況である。

経営状況についても複数の事業者が利用定員を充足しておらず、厳しい状況であった。

事業については、「認知症グループホームさつき」と「福祉用具ポパイ」の2事業が、それぞれの役割を全うし事業終了した。

また、コロナが収束せず、3施設（めぐみの里・カナン・エステル）でクラスターとなった。

（2）経営基盤の強化を図る

①前年度の収支等の反省をしつつ、安定的な収益の確保とコスト削減を強化していく。

- ・特別養護老人ホームカナンが、増床2年目になるが、入所人数が増床人数の累計50名近くになっていたが、お亡くなりになる方も非常に多く、満床にはならず収益が伸びなかった。さらに複数施設に利用者の定員割れがあり収入減となってしまった。

②経営協の「新・web 経営診断」を活用し財務分析を行ない、課題の抽出と対応を進める。

- ・「新・web 経営診断」は実施したが、その中でも利用者の定員割れが明確にあったため、各施設利用者確保に専念したため、他の分析までは実施できなかった。

（3）福祉サービスのさらなる向上

①前年度の度重なった事故等を反省しながら、基本の再徹底と支援の質の向上をはかる。

- ・上記目標を掲げていたが、年度前半に「虐待事件」が発生し、その対応として各施設での研修等を実施はしたが、根本的な改善にはまだ結びついていない。しかし、「支援向上委員会」にて「虐待防止指針」、「身体拘束等適正指針」を策定し、全職員に配布した。

②既存の施設・設備の維持及び向上、そして活用を推進していく。（中長期計画の完成も含む）

- ・中長期の完成までには至らなかった。しかし、旧ベテルの整理を開始した。

③生産性の向上（支援の質の向上、業務の効率化など）の視点に立ち、デジタル化の推進に向けた整備を進める。

- ・業務の効率化では、昨年度管理者中心であったグーグルワークスペースをチームまで広げることができさらに情報共有ができるようになった。
- ・評議員会にてオンラインを活用し開催した。

(4) 地域共生社会の推進

- ①多様化・複雑化する福祉ニーズに対して、SDGs の視点にも立ちながら、恵の園の「地域における公益的な取組」のさらなる推進をはかる。
 - ・「運営協議会」等で「公益的な取組」への提案等出されていたが、具体的に実践するまでには至らなかった。しかし、これまでの継続内容は、実施することができた。
- ②「予防的福祉」の視点を大切にしつつ、施設の利用者及び地域の福祉課題の対応に取り組む。
 - ・コロナがなかなか収束せず、地域との交流や「予防」に取り組むことができなかった。

(5) 組織力のさらなる強化

- ①「より良く」をさらに促進していくために、外部コンサルの協力を得ながら、定期的な業務行動の振り返りと改善行動のサイクルを推し進めていく。
 - ・前年度から引き続き外部コンサルを活用し、改善行動を進めていった。
- ②人材確保（採用・定着・育成）の強化の推進をはかる。
 - ・年間の採用を随時行なうことができたが、交代勤務可能な職員の募集に応募が少なく、各事業所で職員の余裕がない状況が続いている。しかし、外国人労働者（特定・技能実習生）を5名受け入れることができた。

(6) 各福祉サービスの推進

- ①「グレイスホーム」は、車椅子用電動昇降機とリフト浴の導入により車いす利用者の安全な入浴を確保した。また職員の腰痛に対する負担軽減に繋がった。産休、育休、欠勤職員が重なり、準夜勤と深夜勤を期間限定で導入し職員の休日確保に努めた。
- ②「あけぼのホーム」は、館内の無線 LAN（全館 Wi-Fi）環境を整備した。健康面では、便秘傾向の利用者が増えた。食事にファイバー（食物繊維）を混ぜて提供したり、現任研修で対応を学び合った。
- ③「めぐみの里」は、7月に職員が入所者に対して「身体的虐待」をし、傷害罪で逮捕される事件を起こしてしまった。その後の対応についても十分とは言えず、行政から指導・助言を仰ぎながら改善を進めている。また、10月にはコロナクラスターが発生し、C-MAT の助言を受けながら感染対策を行なった。
- ④「カナン」は、年間で21名の新規の利用者を受け入れた。入所後は居室静養の期間を設け、感染防止対策に努めた。ショートステイは、コロナクラスター発生のため受け入れを中止した月もあったが、7～8床の居室を使用し利用率が100%を超える月もあった。
- ⑤「マイーム」は、支援機関と連携を図り、入居前の体験利用を随時行なった。結果、3名の利用者が体験利用を行ない、そのうち1名が正式入所となり、空床の期間を短

縮することができた。また、当初予定していたバルナバホームの物件購入は、先方の都合等により見送った。

- ⑥「さつき」は、平成 16 年 3 月 1 日から 18 年間事業を展開したが、福祉情勢の変化によりグループホームのニーズが減少し、新規入居の希望がなくなってきた。そのため、令和 5 年 3 月 31 日をもって事業終了とした。
- ⑦「ベテル」は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、平均工賃 25,394 円の結果となった。目標に掲げた平均工賃 22,500 円を達成することができた。また、利用率も増加し、施設収支も約 140 万円のプラスとなった。
- ⑧「エステル」は、怪我、精神不安を理由に長期に欠席があり利用率が低下。また、7 月下旬にコロナ感染症のクラスターとなり、2 週間の営業を休止し在宅支援を実施した。就労 B では、コロナの影響も無く売上は昨年比で 2.4%増となったが、平均工賃は 13,504 円と昨年より 0.3%減となった。生活介護では、生産活動として花を種から育成し販売することができた。
- ⑨「シャローム」は、売上は 7,484,416 円（前年度比 88.8%）にとどまった。月額平均工賃は 19,271 円（前年度比 86.7%）となり、目標の 25,000 円を達成することができなかった。コロナ禍により出席率が大きく減少し施設会計はマイナス 3,421,351 円であった。
- ⑩「ゆうかり」は、7 月には 64%まで上昇したが、秋頃から施設入所や医療機関への入院が立て続けにあり、利用率は落ち込んでしまった。1 月にはカナンにおける新型コロナウイルスのクラスター発生と、ボイラー故障により、利用を自粛する方が半数程度みられた。
- ⑪「ぶどうの木」は、法人外の新規利用者獲得、地域課題となっている児童の計画相談に取り組み、法人外の新規利用者が 16 名増加した。めぐみの里の虐待事件を受け、法人内の入所利用者について、利用状況を確認し虐待の早期発見ができるような取り組みを実施した。
- ⑫「シオンの丘」は、今年度もコロナ禍により様々な制約の中での業務遂行であったが、新しいサービス事業所との関係構築、地域包括支援センターと連携し困難事例に取り組み、担当件数は順調に増やすことができた。
- ⑬「ポパイ」は、平成 26 年度よりポパイの事業を開始し、売上や利用者数は着実に伸びていたが、法改正に対応したサービス継続が困難なため、令和 5 年 3 月 31 日で事業終了となった。
- ⑭「オリーブ」は、今年度も法人繰り入れ目標繰入額に達することができなかった。
- ⑮福祉の啓発誌「魁」の編集・作成・発行（4 回）を行ない、福祉の啓蒙を行なった。

（7）施設整備関係

主に次のような施設整備を行なった。

- ①「グレイスホーム」は、車椅子用電動昇降機（643,500 円）、バスラック（2,099,900 円）、ひまわり棟浄化槽修理（446,600 円）
- ②「めぐみの里」は、冷蔵ショーケース（344,300 円）
- ③「カナン」は、ボイラーポンプ 2 ヶ所交換（561,000 円）
- ④「ベテル」は、赤蜻蛉の照明を LED へ交換（167,200 円）、赤蜻蛉のエアコンの入れ替え（827,200 円）、赤蜻蛉の内装工事（1,896,853 円）、MGM 暖房ボイラー交換工事（3,080,000 円）。
- ⑤「エステル」スプリンクラー改修工事（179,300 円）
- ⑥「シャローム」は、業務用冷蔵庫（363,573 円）、エアコン（5 台 3,025,000 円）車両（軽バン、1,381,040 円）

(8) 借入金の償還

- ・グレイスホームの大型改修工事（福祉医療機構）、ダビデホーム建設（北群馬信用金庫）、クロスホーム建設（群馬銀行）、特別養護老人ホームカナン建設（群馬銀行・北群馬信用金庫）、エステル建築（群馬銀行）の各借入金は、令和 4 年度分の償還を予定通り行なった。

＊令和 2 年の特別養護老人ホームカナン増床の借入金については、3 年据え置きで令和 5 年度の 10 月から返済となる。

2. 法人役員、評議員、運営協議会委員

(1) 役員、評議員、運営協議会委員（令和4年4月1日現在）

役 職	定数	氏 名
理 事	7	山田雅人（理事長）、池田澄子、永田智彦、柴田敏樹 内山由紀、麻田紀之、藤巻かおり
監 事	2	澤口俊行、飯塚秀利
評議員	8	木村睦子、細井雅生、星名建市、井口千春、賤津進介、櫻井実 島田幸治、山崎友丈
運営協議会委員	5	川原武男、新保雄、細谷広平、内海文雄、中澤悦二

(2) 就任・退任役員

①就任役員

役職名	氏 名	就任年月日	備 考
	なし		

②退任役員

役職名	氏 名	退任年月日	備 考
	なし		

(3) 就任運営協議会委員

①就任委員

役職名	氏 名	就任年月日	備 考
運営協議会委員	細井 広平	令和4年4月1日	

②退任委員

役職名	氏 名	退任年月日	備 考
運営協議会委員	永井 克俊	令和4年3月31日	

3.理事会開催状況

開 催 日	審 議 内 容	審議結果
第258回 令和4年5月25日	第1号議案 令和3年度 事業報告（案） 第2号議案 令和3年度 会計収支決算（案） 監事監査報告 第3号議案 社会福祉充実残高及び社会福祉充実計画 について（案） 第4号議案 理事長報酬（案） 第5号議案 令和4年度 第一次収支補正予算（案） ・カナン 第6号議案 マイーム 物件の購入について(案) 第7号議案 諸規程の一部変更（案） ・職員給与規程 ・契約職員給与規程 第8号議案 第130回評議員会の開催について（案）	可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決
第259回 令和4年8月1日	審議事項なし (めぐみの里虐待事案報告)	
第260回 令和4年9月22日	第1号議案 令和4年度 第二次収支補正予算（案） ・法人 ・グレイスホーム ・あけぼのホーム ・めぐみの里 ・ベテル ・エステル ・マイーム ・さつき ・シオンの丘 第2号議案 定款の一部変更（案） 第3号議案 諸規定の一部変更（案） ・職員就業規則 ・職員給与規程 ・契約職員就業規則 ・契約職員給与規程 ・育児・介護休業等に関する規程 第4号議案 運営規程の変更（案） ・グレイスホーム ・あけぼのホーム ・めぐみの里 ・ベテル ・エステル ・シャローム ・マイーム 第5号議案 ポパイ 事業終了（案） 第6号議案 第131回評議員会の開催について（案）	可決 可決 可決 可決
第261回 令和4年12月19日	第1号議案 エステル 定員変更について（案） 第2号議案 グループホームさつき 事業終了に ついて（案）	可決 可決

第262回 令和5年2月28日	第1号議案	マイーム 物件購入の延期（案）	可決
	第2号議案	さつき 事業終了後の建物（1階）の活用（案）	可決
	第3号議案	さつき 事業終了に伴う積立金取り崩し（案）	可決
	第4号議案	令和4年度 第三次収支補正予算（案）	可決
	第5号議案	令和5年度 法人・施設管理責任者施設長・会計責任者・出納係（案）	可決
	第6号議案	令和5年度 事業計画（案）	可決
	第7号議案	令和5年度 収支予算（案）	可決
	第8号議案	定款の一部変更（案）	可決
	第9号議案	諸規定の一部変更（案） ・職員就業規則 ・短時間正職員規程 ・職員給与規程 ・契約職員給与規程 ・経理規程	可決
	第10号議案	運営規程の一部変更（案） ・ベテル ・エステル ・シャローム ・マイーム	可決
	第11号議案	令和5年度 介護職員初任者研修開催（案）	可決
	第12号議案	第132回評議員会開催について（案）	可決

4.評議員会開催状況

開催日	審議内容	審議結果
第130回 令和4年6月10日	第1号議案 令和3年度 会計収支決算（案） 監事監査報告	可決
	第2号議案 社会福祉充実残高及び社会福祉充実計画について（案）	可決
	第3号議案 理事長報酬（案）	可決
	第4号議案 令和4年度 第一次収支補正予算（案） ・カナン	可決
	第5号議案 マイーム 物件の購入について（案）	可決
第131回 令和4年10月19日	第1号議案 令和4年度 第二次収支補正予算（案） ・法人 ・グレイスホーム ・あけぼのホーム ・めぐみの里 ・ベテル ・エステル ・マイーム ・さつき ・シオンの丘	可決
	第2号議案 定款の一部変更（案）	可決
	第3号議案 ポパイ 事業終了（案）	可決
第132回 令和5年3月22日	第1号議案 令和4年度 第三次収支補正予算（案）	可決
	第2号議案 さつき 事業終了後の建物（1階）の活用（案）	可決
	第3号議案 定款の一部変更（案）	可決
	第4号議案 令和5年度 事業計画（案）	可決
	第5号議案 令和5年度 収支予算（案）	可決

5.運営協議会開催状況

開催日	内 容
実施なし	

6. 内部監査結果

令和4年5月20日（金）に当法人の監事による令和3年度事業報告及び決算諸表の監査を実施した。

7.法人借入金償還状況 ※元金のみ (単位：千円)

借入先	当初借入額	償還済額	当期減	借入残額	備 考
社会福祉・医療事業団	30,000	19,010	1,570	9,420	グレイスホーム 建物改修工事借入金
北群馬信用金庫	36,800	35,100	1,700	0	ダビデホーム 建設借入金
群馬銀行	45,000	37,665	4,860	2,475	クロスホーム 建設借入金
群馬銀行	600,000	80,016	20,004	499,980	カナン 建設借入金
北群馬信用金庫	500,000	50,040	16,680	433,280	
北群馬信用金庫	600,000	0	0	600,000	
群馬銀行	120,000	24,240	6,060	89,700	エステル 建設借入金
計	1,931,800	246,071	50,874	1,634,855	

8.職員人事異動状況 (令和4年度中) ※正職員のみ

	採用	退職
人数	11名	10名

9.職員配置状況（令和5年3月31日現在）

	グレイス ホーム	あけぼの ホーム	めぐみの 里	ベテル	エステル	シャローム	マイーム	ぶどうの木
正職員	10	21	23	5	6	1	1	2
契約職員	6	19	23	4	10	8	8	1
嘱託医等	(1)	3	1	(1)	(1)	(1)	0	0
派遣職員	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	16	43	47	9	16	9	9	3

	カナン	さつき	ゆうかり	ポパイ	シオンの丘	オリーブ	合 計
正職員	27	2	4	1	2	0	105
契約職員	22	6	4	1	0	2	114
嘱託医等	3	0	0	0	0	0	7
派遣職員	0	0	0	0	0	0	0
合 計	52	8	8	2	2	2	226

※兼務職員は所属施設のみに計上しています。

※嘱託医の兼務は()で記載し合計には含めません。

10.施設利用者状況（定員及び現員及び利用率）（令和5年3月31日現在）

定員及び現員

	グレイス ホーム		あけぼの ホーム		めぐみの里		ベテル		エステル				シャローム	
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	就労継続		生活介護		定員	現員
生活介護	30	29	50	46	80	77								
入所支援	30	29	50	46	80	77								
入所														
通所							20	27	30	29	10	12	20	20
短期入所	1		3		空床									
日中一時					若干名		1		1					
計	31	29	53	46	80	77	20	27	30	29	10	12	20	20

年間利用率（％）

生活介護	81.4	90.7	90.7				
入所支援	83.4	90.6	91.2				
通所				104.3	77.6	94	72.3
短期入所	16.4	0					
日中一時							

	バルナバ ホーム		さくら ホーム		ダビデ ホーム		クロス ホーム		カナン		さつき		ゆうかり	
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
生活介護														
入所支援														
入所	5	5	4	4	6	6	7	7	90	58	9	0		
通所													20	30
短期入所									空床					
日中一時														
計	5	5	4	4	6	6	7	7	90	58	9	9	20	30

年間利用率（％）

入所	100	100	99.5	91.8	68.3	65.5	
通所							51.2
短期入所					63.5		
日中一時							

	合計	
	定員	現員
生活介護	160	152
入所支援	160	152
入所	121	80
通所	100	118
短期入所	4	
日中一時		
計	385	350

	シオンの丘
人数	73

※生活介護と入所支援の利用重複者と、日中一時の定員と現員数は合計には加算していません。

※ゆうかりの現員数は、契約者数となり、合計には含まれません。

11.補助金による助成物件

(単位：円)

助成団体	補助対象施設	助成物件	総 額	助成金額
東京都	あけぼのホーム	物価高騰費用	1,375,390	1,375,390
群馬県	あけぼのホーム	物価高騰費用	75,000	75,000
東京都	あけぼのホーム	新型コロナウイルス 感染による経費	1,012,000	1,012,000
群馬県	グレイスホーム	物価高騰費用	465,000	465,000
群馬県	グレイスホーム	新型コロナウイルス 感染による経費	106,000	106,000
群馬県	めぐみの里	物価高騰費用	1,200,000	1,200,000
群馬県	めぐみの里	新型コロナウイルス 感染による経費	974,000	974,000
群馬県	ぶどうの木	物価高騰費用	20,000	20,000
群馬県	ベテル	物価高騰費用	200,000	200,000
群馬県	エステル	物価高騰費用	400,000	400,000
群馬県	エステル	新型コロナウイルス 感染による経費	60,000	60,000
群馬県	シャローム	物価高騰費用	200,000	200,000
群馬県	カナン	物価高騰費用	1,425,000	1,425,000
群馬県	カナン	新型コロナウイルス 感染による施設内 療養費	4,800,000	4,800,000
群馬県	カナン	新型コロナウイルス 感染による経費	1,274,000	1,274,000

群馬県	ゆうかり	物価高騰費用	200,000	200,000
-----	------	--------	---------	---------

<総務部>

(1) 庶務・経理係

①概要

業務効率化や計算ミス等を防ぐため給与計算ソフトの見直しを検討。勤怠管理ソフトの説明などオンラインであったが、正職員の給与締め日などの問題があることが分かった。予算作成時は、施設長と連携して作成することが出来た。

②重点目標に対する取り組み

ア 業務の整理と統一化を図る

- ・マニュアルの作成を継続した。作成担当を決め、定例会議での検討事項とし、漏れのないように進めた。業務の統一化を図りルールを共有化することに重点的に取り組んだ。

マニュアル担当者を決め、各職員に分担し作成を今年度も行なった。職員会議内では十分に検討ができないため、マニュアル検討会議を原則月1回開催し検討・確認を進めた。検討することで、個々人での記入の仕方の違いが分かり、訂正を行なった。そのため、検討、修正に時間がかかっている。次年度も引き続き実施をする。

- ・業務のICT化の推進。昨年実施できなかった他法人の見学の他、情報収集をオンライン中心に行なった。

③見学者受け入れ状況

区分／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
団体	日数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	3
	人数	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	6	2	12
個人	日数	2	1	4	0	1	0	3	3	0	0	4	1	19
	人数	2	1	4	0	1	0	3	3	0	0	4	1	19
総 合計	日数	2	1	4	0	2	0	3	3	0	0	5	2	22
	人数	2	1	4	0	5	0	3	3	0	0	10	3	31

(令和3年度 13日、19人)

④実習生受け入れ状況

区分／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
社会人・学生 (資格取得)	日数	0	2	17	8	20	36	6	12	0	16	24	45	186
	人数	0	2	5	2	3	7	4	6	0	2	8	15	54
生徒 (施設利用)	日数	0	10	0	0	0	26	11	0	0	5	11	0	63
	人数	0	2	0	0	0	4	1	0	0	1	1	0	9
総合計	日数	0	12	17	8	20	62	17	12	0	21	35	45	249
	人数	0	4	5	2	3	11	5	6	0	3	9	15	63

(令和3年度 358日、67人)

(2) 固定資産管理係

①概要

利用者の安心・安全な生活を維持するために保守点検・環境整備・建物設備を計画して整備を実施した。整備中長期計画を更新し今後の計画を見直した。

②重点目標に対する取り組み

- ア 法人の建物設備を永く丁寧に使用するために管理、監督を行なう
- ・積立を取り崩して修繕・購入を進めた3施設は計画通りに進めることが出来た。
 - ・予算を計画していたが収入面が厳しい状況の施設は整備を執行できなかった。

③主に実施した施設整備

- ・赤蜻蛉の空調と館内整備（LED、壁紙）、暖房ボイラー購入（ベテル）
- ・男性トイレ配管整備、浴室機器購入、ひまわり棟浄化槽整備（グレイスホーム）
- ・全館 Wi-Fi の整備（あけぼのホーム）
- ・スプリンクラー整備（エステル）
- ・厨房機器整備、看板整備、休憩室整備、浄化槽ポンプ交換（シャローム）
- ・教会音響整備

※正門改修工事、教会屋外掲示板、法人全体の舗装工事は検討不足で実施できなかった。身障施設水道管補修工事は次年度予算で計画を進めた。

月	日	実施内容	業者
4	4	浄化槽法第 11 条検査①	県環境検査事業団
	8	簡易専用水道定期検査	県環境衛生試験センター
5	10	樹木消毒	身障施設で対応
	9	浄化槽清掃（グレイスホーム、バルナバホーム、若杉寮）	渋川衛生社
	25	身障施設水道管修理	藤田エンジニアリング
	27	建物設備調査（あけぼのホーム、めぐみの里、カナン）	建築工房アキモト
7	7	旧ベテル廃棄処分	田子商会
	12	樹木伐採（全施設対象）	勢多造園
8	1	浄化槽清掃（MGM、ベテル）	渋川衛生社
	2	地下重油タンク気密点検（グレイスホーム、あけぼのホーム、めぐみの里）	トキコシステムソリューションズ
	25	若杉寮 203 号室 Wi-Fi 設置	コーワパートナーズ
9	28	浄化槽清掃（クロスホーム、職員研修所、さつき）	渋川衛生社
10	11	浄化槽汚泥引抜（エステル）	渋川衛生社
	13	浄化槽 11 条検査（エステル、さつき）	県環境検査事業団
	24	ボイラー缶体洗浄（あけぼのホーム）	藤田テクノ
11	14	職員研修所 1 階ファンコイル交換	萩原興業

	15	浄化槽汚泥引抜（あけぼのホーム）	渋川衛生社
	30	浄化槽 11 条検査②	渋川衛生社
12	8	浄化槽清掃（グレイスホーム）	渋川衛生社
1	9	水道メーター交換（カナン、めぐみの里）	竹井設備
	26	スプリンクラー破損修理（あけぼのホーム、カナン）	正栄技研
2	2	浄化槽清掃（MGM、ベテル）	渋川衛生社
3	2	浄化槽 11 条検査（あけぼのホーム）	渋川衛生社
	8	浄化槽清掃（ダビデホーム）	渋川衛生社
		LP ガス点検	県 LP ガス協会
	17	汚泥引抜（めぐみの里、カナン）	関東清掃社
	18	受水槽清掃（カナン、めぐみの里、身障施設）	日化メンテナンス

※浄化槽定期点検・定期清掃は、法令に則り実施。

※浄化槽法第 11 条検査（年 1 回・県環境検査事業団）は、3 回に分けて実施。

①グレイスホーム、めぐみの里、カナン、シャローム

②教会、ベテル、旧ベテル会議室、さつき

③クロスホーム、ダビデホーム、バルナバホーム、職員研修所、若杉寮、MGM、地域交流ホーム

※簡易専用水道定期検査は、身障施設（25 トン）めぐみの里（24 トン、6 トン）、カナン（35 トン）の 3 箇所を実施。

※身障施設・めぐみの里・カナンのキュービクルは、奇数月に定期検査を実施（関東電気保安協会）

<人事部>

(1) 人材育成係

①概要

今年度より外国人介護人材の受入を開始したため、それに伴う内部研修を企画し、外部研修にも参加した。

また、外部コンサル（リンクアンドモチベーション）を活用し、業務行動を振り返る機会を意図的に設けた。

②重点目標に対する取り組み

ア 職員の成長を推進するための仕組みづくりを再構築する

- ・「職務専念義務免除制度」を大幅に見直し、対象となる職員や研修の範囲を広げた。
- ・「恵の園図書館（伊藤文庫）の整理」には、着手ができていない。

イ 組織力を強化するための取り組みの一環として、コミュニケーションに力を入れ、継続的に発展させていく

- ・山田創設者による研修は、年間を通して「コミュニケーション」に関連した内容を実施した。
- ・年度当初に予定をしていた「コミュニケーション研修」は、先方との調整がつかずに中止した。

③実施研修

ア 法人内研修

- ・理事長研修（講師：山田理事長）

月	日	内 容
6	1	人事部のスタッフにおさえておいて欲しい大切な基本 (人事部、管理職対象：12名)
10 11 12 3	24、26、 31 14、28、 12、26 6	社会の変化とこれからの福祉（全職員対象）

- ・管理職研修会（講師：山田後援会長）

月	日	内 容
5	16	人を育てる（その1）
8	22	コロナ禍のため中止
11	21	リーダーに不可欠な条件

・指導職研修会（講師：山田後援会長）

月	日	内 容
6	20	指導職は指導力を身につけよう
9	16	管理職（指導職）は現場をどこまで知っていますか？
12	16	魅力的なリーダーの条件
3	17	現状と課題にどう取り組むか（第三者の視点から）

・一般職研修会（講師：山田後援会長）

月	日	内 容
7	15	アンラーン（学ばない）
10	17	自分自身への投資（教育）を怠るな
1	16	コロナ禍のため中止

・新任指導職研修(対象者：2名)

月	日	内 容	講 師
5	9	新任指導職研修 「新任チーフに伝えたいこと」 ～大切にしてほしいこと～	山田理事長
6	6	新任指導職研修 「Do-CAP 面談について」	近藤施設長

・全体研修会、テーマ別研修会

月	日	内 容	講 師
11	9	交通安全講習会 (10/12 に運転適正検査を実施)	JAF
11	7	めぐみの里のコロナクラスター報告 感染症対策 「秋から冬にかけて流行する感染症」 ～恵の園で行なえる予防と対策～	藤巻施設長 産業医 井口医師

・現任研修会

各施設にて年間 11 回実施

4 月には全施設で虐待防止に関連する研修を実施

・役職研修会

月	日	内 容	講 師
11	28	外国人介護人材の受け入れ	藤巻人事部長

・中堅職員研修、リーダーズアカデミー：企画せず

・令和 4 年度 新任職員研修

月	日	内 容	講 師
4	1、4、5、6	新任職員研修	山田理事長、各施設長他
	18	新任職員研修	山田後援会長
7	4	フォローアップ研修①	人材育成係

3	3	フォローアップ研修②	人材育成係
---	---	------------	-------

イ 法人外研修

- ・施設毎に種別団体の研修、群馬県社会福祉協議会、経営青年会、強度行動障害、ぐんま DWAT、外国人介護人材の受け入れに関する研修などに参加。
- ・コーチング（コーチ・エイの DCD）：実施せず

ウ 見学研修

- ・share 金沢への見学研修（県経営青年会主催：藤巻）

エ 自己啓発の推進

- ・「職務免除制度」を見直し、3 月末に完成した。

オ 専門医等による研修

- ・産業医による感染症に関する研修（全体研修）を実施した。
- ・zoom 等を活用し、新型コロナウイルス感染症に対する予防策などの研修を受講した。

カ 赤城教育セミナー開催準備

- ・検討できていない。

キ リンクアンドモチベーション

- ・2 回のサーベイを実施した。（第 4 回：6/17～27、第 5 回：1/24～30）
- ・サーベイ結果をもとに各施設でアクションプランを作成し、組織単位の振り返りを実施している。
- ・先方とは定期的にオンラインによる打ち合わせを実施し、助言を受けている。

（２）採用係

①概要

夜勤のできる職員の確保を中心に採用活動を行なった。他施設（特に入所施設）の職員不足もあり、ハローワーク等の就職説明会に参加したが、コロナ禍によるイベントの縮小等もあり思うような活動ができなかった。今後も人材確保に向けた取り組み（特に夜勤のできる職員確保）は継続していく必要がある。

②重点目標に対する取り組み

ア 人材の確保と定着

- ・今年度 27 名と面談を実施し、14 名の採用に繋がった（正職 5 名、契約職 9 名）。
- ・ハローワークの紹介から 5 名の採用に繋がった。
- ・職員の紹介から 2 名の採用に繋がった。
- ・各団体の就職説明会に随時参加したが、今年度は採用に繋がらなかった。
- ・10 月インドネシア人の介護人材（特定技能）2 名、1 月中国人介護人材（技能実習）3 名の受け入れを行なった。

(3) 安全衛生委員会

①概要

安全で快適な職場づくりに取り組んだが、7 件の労災事故が発生してしまった。
(昨年度 4 件)

②重点目標に対する取り組み

ア 「感染症予防」を定着させる

- ・昨年度末より継続して、「新型コロナウイルス感染症」が全国的拡大につき、産業医と連携し、注意喚起と対策検討を行なった。また、感染早期発見のため 12 月から 1 月にかけて計 4 回スクリーニング検査を実施した。「恵の園 新型コロナ BCP」の見直しを進めたが変更には至らなかった。
- ・3 月 13 日からのマスク着用等の対応について、オクレンジャーで職員への周知を実施した。

イ 「安全安心の労働環境」を構築する

- ・体力チェックの検討をしたが実施には至らなかった。いきいき健康事業所宣言の検討も行なったが実施には至らなかった。

・年間報告

月	日	内 容
7	7,13	深夜業従事者の健康診断（三愛クリニック）
8	17～25	ストレスチェック（マインメンタルヘルス研究所）
11	7	井口産業医による全体研修「感染症予防について」
1	24,27	35 歳未満職員（週 30 時間以上）の健康診断（三愛クリニック）

・労働災害

発生日	施 設	内 容
7 月 11 日	めぐみの里	利用者の移乗介助をした際に腰に痛みが出て通院した。
7 月 15 日	エステル	渋川市総合公園にて清掃作業中に蜂に刺され通院した。
8 月 1 日	めぐみの里	2 階から投げられた板が職員の頭部に直撃し通院した。
10 月 1 日	ベテル	実習生の対応中に突き飛ばされ、臀部を強打し、通院した。
12 月 1 日	ベテル	エキセン機を作動させる際に、右手人差し指を裂傷し通院した。
2 月 10 日	あけぼのホーム	利用者の移乗介助をした際に腰に痛みが出て通院した。
2 月 25 日	めぐみの里	利用者の移乗介助をした際に腹に痛みが出て通院した。

(4) 交通安全係

①概要

運転適性検査を実施した。安全運転、事故防止のためポスターやチラシの掲示や配布をした。朝礼等で交通安全週間や交通事故予防の呼びかけは例年通り実施した。

②重点目標に対する取り組み

- ア 社用車の運転前後で、酒気帯び確認することが義務化された。確認記録簿、アルコールチェッカーを運用して、飲酒運転根絶に取り組む。
 - ・アルコールチェッカーを導入し、酒気帯び確認を実施した。
- イ 交通安全講習等を行ない、職員の交通安全意識を高めていく。
 - ・運転適性検査を実施した。その後安全運転講習を実施した。安全運転、事故防止のためポスターやチラシの掲示や配布。朝礼等で交通安全週間や交通事故予防の呼びかけは例年通り実施した。

③業務計画

- ア 酒気帯び確認のため、確認記録簿、アルコールチェッカーを導入する。
 - ・アルコールチェッカーを導入し、酒気帯び確認を実施した。
- イ 運転適性検査を実施する。
 - ・運転適性検査と安全運転講習を実施した。研修でいただいた車両点検の資料を車両担当職員へ配布し活用を促した。
- ウ 洗車、工具類の点検を定期的実施する。
 - ・三角停止板を全施設車両へ整備した。
- エ ホイールローダ講習の受講を計画的に進める。
 - ・各施設にインフォメーションし、4名受講することができた。

＜その他の係＞

（１）防災・防犯係

①概要

コロナの影響で避難訓練の日程調整が難しく、各施設共に予定通りに実施ができなかった。また、明保野地区防災委員会の会議の実施に向けて各事業所と調整を行なったが、コロナクラスターの発生などで実施できなかった。

②重点目標に対する取り組み

ア 防災面：防災訓練を実施していない部署（庶務経理、厨房、オリーブ）の訓練を計画・実施する。

- ・6月にぶどうの木、ポパイの現任研修で、消防設備確認と合わせて火災が起きた時の対応について検討を行なった。しかし、訓練実施まで行なわなかった。
- ・庶務経理で対応について検討を行なった。非常時の持ち出し品など詳細は、引き続き検討を行なう。訓練実施までは行なうことはできなかった。

イ 防犯面：・防犯マニュアルを完成させる。

- ・マニュアル作成を進めたが、夜間に不審者を発見した場合の各勤務者（管理宿直者、チーフ宿直、各施設夜勤者）の動きの内容が不十分なため、次年度も引き続き、検討を行なうこととなった。

③全体の取り組み事項

月	内 容
4	・緊急連絡網の更新 ・利用者状況表の更新
5	・消防設備定期点検、消火器点検（共和消防設備：11,12,17,18日）
8	・地下重油タンク気密漏洩検査：グレイスホーム、あけぼのホーム、めぐみの里（トキコシステムソリューションズ：2,3日） ・重油タンク目視点検（グレイスホーム、あけぼのホーム、めぐみの里） ・スプリンクラー点検：グレイスホーム、あけぼのホーム、めぐみの里（正栄技研：25,26日）
9	・スプリンクラー点検：カナン（正栄技研：16日）
11	・消防設備点検、消火器点検（共和消防設備：15,18,19,22日） ・消防署立ち入り検査（カナン：14日）
12	・消防署立ち入り検査（法人本部：5日）
1	・危険物取扱者保安講習（9日：金澤）
2	・防火対象物点検（共和消防設備：1～2日） ・スプリンクラー点検（正栄技研：24,27日） ・消火器交換（正栄技研：2日）
3	・防火管理者更新講習（7日：櫻井）

④防災訓練実施結果および各施設の取り組み事項

	訓練内容	日程（※印は施設ごとの取り組み事項）
グレイスホーム	火災想定訓練（日中） 火災想定訓練（夜間検証） 地震想定訓練	8月18日 2月21日（消防書立ち会い） 3月25日
あけぼのホーム	火災想定訓練（日中） 火災想定訓練（夜間検証） 地震想定訓練	6月21日 3月14日 ※浴室の感知器交換。
めぐみの里	火災想定訓練（日中） 火災想定訓練（夜間検証） 地震想定訓練	3月23日 実施せず 実施せず ※コロナの影響で日中想定 of 訓練のみ実施。夜間検証訓練を次年度へ繰り越し実施。 ※2階フロアの感知器及び誘導灯の一部交換 ※3階ベランダの避難経路の物品撤去
マイーム	火災想定訓練	6月3日（全体訓練） 実施せず
ベテル	火災想定訓練（1回目） 〃（2回目） 地震想定訓練	9月30日 3月17日 実施せず
エステル	火災想定訓練（1回目） 〃（2回目） 地震想定訓練	8月23日（消防書立ち会い） 3月14日 実施せず ※火災表示板で場所を確認してから火元を特定させる訓練を実施。
シャローム	火災想定訓練（日中） 風水害想定訓練 地震想定訓練	3月31日 3月23日 実施せず
カナン	火災想定訓練（日中） 火災想定訓練（夜間検証） （再夜間検証） 地震想定訓練	11月10日 12月15日 2月27日 実施せず ※夜間検証訓練で課題があり、消防署から再訓練の指示があり実施。 ※1月にスプリンクラー配管が凍結で亀裂が入り、被害にあった。 ※屋上エレベーター前室の物品移動。
ゆうかり	火災想定訓練（1回目） 地震想定訓練（2回目）	8月3日 12月15日
さつき	火災想定訓練（日中）	6月23日

	火災想定訓練（夜間） 地震想定訓練	実施せず 実施せず ※事業終了に伴う準備のため下半期 は訓練を実施せず
--	----------------------	--

※防火自主点検は偶数月に実施

※コロナ禍により、消防署の立ち合いは下半期のみ

※コロナ禍で明保野地区の防災会議、ソフトボール大会、合同防災訓練は中止

（２）広報係

①概要

一粒の麦を 7 月（夏号）、12 月（秋号）、新年号を 3 月に発行。春号については、コロナ禍の影響により、各施設での取り上げる記事がなく夏号との合併とした。印刷班との調整により、初校から発行までの流れはよくなったが、責任者、担当施設、印刷班との連絡調整に課題が残った。法人ホームページの更新を予定していたが、具体的な話に進められず実施できなかった。

②重点目標に対する取り組み

ア 広報機能の強化

- ・広報誌の発行について、変更した校正手順をマニュアル化し担当者へ周知を図る。発送担当の施設がマニュアルを修正しながら対応を進めたが、最終的なまとめができていない状況。
- ・SNS の活用を継続しながら、ホームページリニューアルする。
SNS への情報発信は定期的実施した。しかし、ホームページのリニューアルについては、具体的な話に進めることができなかった。

③事業内容

ア 法人パンフレットの改訂および管理

- ・カナンの短期入所を変更。

イ 施設 PR パンフレットの改訂および管理

- ・法人玄関の補充を定期的実施。現在、同じ書式を使用せずに施設ごとに作成中。

ウ 「施設紹介ムービー」の更新・管理と活用

- ・大きな変更はなし。

エ 「恵の園からのメッセージ」ムービーの更新・管理と活用

- ・研修や見学者来園時に使用した。

オ 「ヒストリームービー」の作成・管理と活用

- ・上申中。

カ 施設紹介パネルの更新および管理

- ・所定の場所に掲示。一部追加、修正中。

キ ホームページの更新および管理

- ・各施設の行事、求人情報等を随時更新した。また、フェイスブック、インスタグラムの更新も同時に実施した。
- ク 恵の園ニュース「一粒の麦」の作成および配布と管理
 - ・春号を夏号と合併し発行した。
 - ・毎号 2,500 部を印刷していたが、発送先の減少から 2,000 部に減らした。約 1,200 部を送付。
 - ・夏号：令和 4 年 7 月 22 日発行
 - ・秋号：令和 4 年 11 月 26 日発行
 - ・新年号：令和 5 年 3 月 8 日発行
- ケ 職場啓発ポスターの掲示および管理
 - ・2 ヶ月に一度ローテーションし、所定の場所に掲示した。

(3) 地域福祉係

①概要

昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大の影響があり、例年実施していた活動はほぼ実施することができなかった。重点目標に掲げた「SDGs の視点をより意識し、地域のニーズに応える取り組みを検討する」については、2 月に「制服リユース事業」への参加協力について検討を行なった。また「地域福祉係の各業務の手順書を作成する」については、すべての内容を完成するまでには至らなかった。

②重点目標に対する取り組み

- ア SDGs の視点をより意識し、地域のニーズに応える取り組みを検討する
- ・昨年から開始したフードパントリーについて、継続して協力を行なった。一年間で計 331 品を無償で提供した。
 - ・渋川市社会福祉協議会が窓口となり実施する「制服リユース事業」について、2 月より参加協力に向けた検討を開始した。
- イ 地域福祉係の各業務の手順書を作成する
- ・昨年に引き続き、各業務の手順書の作成を行なった。その中で「書道クラブ」「榛名女子学園による奉仕活動」「高柳歌謡教室」「ボランティアの日事業」「恵の園をささえる会」については完成した。

③地域との交流について

- ・昨年に続き、渋川市社会福祉協議会が主催したボランティアの日事業の一つである「ボランティアメッセージ」に職員 4 名が協力をした。
- ・地域サービスウィークとして、6 月と 10 月に利用者と共に明保野地区の環境美化活動を実施した。

④講師等の派遣について

- ・榛名女子学園から介護職員初任者研修の講師の依頼があり、職員 15 名が講師を担当した。新たに 1 名の職員が新たに講師を担当した。

⑤その他

- ・渋川ライオンズクラブのふれあいボウリング大会や高崎パイロットクラブコンサート、Jリーグ「ザスパ草津」観戦、BCリーグ「ダイヤモンドペガサス」観戦招待はコロナ禍のため辞退した。
- ・豊秋赤十字奉仕団（旧豊秋婦人会）より、花の苗をいただき、各施設へ配布した。
- ・高柳歌謡教室発表会は開催されなかった。
- ・7月18日、11月23日の2回、恵の園をささえる会のボランティア活動の受け入れを行なった。
- ・新たに1名のボランティア登録があった。ボランティアを通し、採用に繋げることができた。

（４）支援向上委員会

①概要

知的入所施設（7月）で「虐待事件」を引き起こしてしまった。その後の「虐待防止」の取り組みが充分に対応することができなかった。

②重点目標に対する取り組み

ア 手引書の完成と周知

- ・恵の園の支援向上についての手引書を作成する前に「虐待防止指針」と身体拘束等適正化指針」の作成に取り組み完成し全職員に配布した。

イ 身体拘束、行動制限ゼロに向けた取り組み

- ・支援向上委員会の会議において、各施設の身体拘束を行なっている利用者の状況等を報告してもらい、委員会で対応について確認した。また、身体拘束の実態を確認する予定であったが実践できなかった。

ウ 福祉サービスの自己点検と継続的な改善を進める

- ・支援の質の向上を目指し、各施設で研修を実施するために、「バイスティックの7原則」、「スピーチロック」、「介護技術（移乗）」のレジュメを作成した。しかし、各施設での実施までには至らなかった。

③業務計画

ア 4月に虐待防止月間。各施設での実施。

イ 半年に1回「仕事の基本セルフチェックリスト」を行ない、各施設で改善取

り組みを実施した。

④年間予定

月	内 容
4	虐待防止月間・「仕事の基本チェックリスト」実施
5	「仕事の基本チェックリスト」集計、手引き書完成
7	「仕事の基本チェックリスト」実施
8	「仕事の基本チェックリスト」集計

(5) 公益的取り組み

①概要

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、昨年度に引き続き介護予防教室の再開は行なえなかった。明保野地区へ回覧板を活用し情報提供を行なった（介護予防リーフレットを発行した）。また渋川広域障害福祉なんでも相談室にも介護予防リーフレットを置かせていただいた。また法人のホームページを利用し、公益的な取り組みの実施状況等について発信した。

②重点目標に対する取り組み

ア「予防も福祉」という視点を持って、リーフレットの作成を検討していたが作成には至らなかった。

イ 買い物支援、ゴミ出し支援等検討したが、実施には至らなかった。

③社会福祉に関する教育活動や情報提供

- ア ペットボトルのキャップを年間を通じて約 330kg 収集し、世界の子供にワクチンを送る支援の協力を行なった。
- イ 福祉体験学習及び職場体験活動については、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。
- ウ 榛名女子学園の介護職員初任者研修に講師 15 名、23 日間派遣した。
- エ 福祉系専門学校及び大学の学生さんの資格取得に向けた現場での実習を、延べ 26 名、211 日間に渡り受け入れた。
- オ 福祉・教育・医療分野の広報誌「魁」を年 4 回、毎回 3,000 部発行し、一般の方々へ福祉啓蒙活動を行なった。

④福祉サービス対象外の方への支援

- ア 通院・入院が困難なの方々に対して、職員が同行し、手続きや入院中の支援を行なった。
- イ 障害特性等で地域生活が困難な利用者 1 名に対して、職員寮を安価で提供し、

生活全般の支援を行なった。

⑤地域の福祉ニーズに対する取り組み

- ア NPO 法人渋川広域障害保健福祉事業者協議会に役員 1 名が経営参加、また、職員 1 名を派遣し、渋川市の相談支援を中心としたニーズに応えるとともに相談支援事業所「ぶどうの木」と連携し計画相談や一般相談を行なった。
- イ ボランティア団体「信愛えんがわカフェ」が主催するフードパントリーへ寄付品の協力を継続した。

⑥少年矯正事業への協力

- ア 前橋家庭裁判所および高崎家庭裁判所からの補導少年の福祉現場での体験実習を受入れた。

	期間	性別	人数		期間	性別	人数
1	6/13～17（5 日間）	男	1	2	10/24～28（5 日間）	男	1
				計	2 人（10 日間）		

（令和 3 年度 1 人）

- イ 榛名女子学園の園生の福祉現場での奉仕活動については、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（令和 3 年度 0 人）

⑦災害時における要配慮者への支援

- ア 地域の方々が災害時・遭難時など食物・飲用水の入手が困難な場合に備えるため、防災備蓄食の在庫の確認を行なった。

令和4年度

施設事業報告書

社会福祉法人 恵の園

種 別	施 設 名 称
障 害 者 支 援 施 設	グ レ イ ス ホ ー ム
障 害 者 支 援 施 設	あ け ぼ の ホ ー ム
障 害 者 支 援 施 設	め ぐ み の 里
障 害 福 祉 サ ー ビ ス 事 業	ベ テ ル
障 害 福 祉 サ ー ビ ス 事 業	エ ス テ ル
障 害 福 祉 サ ー ビ ス 事 業	シ ャ ロ ー ム
障 害 福 祉 サ ー ビ ス 事 業	マ イ ー ム
相 談 支 援 事 業	ぶ ど う の 木
特 別 養 護 老 人 ホ ー ム	カ ナ ン
認知症対応型老人共同生活援助	さ つ き
デ イ サ ー ビ ス	ゆ う か り
福 祉 用 具 貸 与 ・ 販 売 事 業	ポ パ イ
居 宅 介 護 支 援 事 業	シ オ ン の 丘
収 益 事 業	オ リ ー ブ

目 次

第1章 年間行事、集会等	1
第2章 会議・研修・集会等一覧	3
第3章 障害者支援施設	
1. グレイスホーム〔生活介護事業・施設入所支援事業〕	5
2. あけぼのホーム〔生活介護事業・施設入所支援事業〕	10
3. めぐみの里〔生活介護事業・施設入所支援事業〕	16
第4章 障害福祉サービス事業所	
1. ベテル〔就労継続支援事業B型〕	21
2. エステル〔就労継続支援事業B型・生活介護事業〕	25
3. シャローム〔就労継続支援事業B型〕	29
4. マイーム〔共同生活援助事業・共同生活介護事業〕	32
第5章 相談支援事業	
1. ぶどうの木	34
第6章 高齢福祉事業	
1. カナン〔特別養護老人ホーム・短期入所生活介護〕	36
2. さつき〔地域密着型サービス認知症対応型老人共同生活援助〕	44
3. ゆうかり〔通所介護・予防介護〕	47
第7章 公益事業	
1. ポパイ〔福祉用具貸与・販売事業〕	49
2. シオンの丘〔居宅介護支援事業〕	50
第8章 収益事業	
1. オリーブ	51

第3章 障害者支援施設

1. グレイスホーム〔生活介護事業・施設入所支援事業〕

(1) 概要

利用者の新規獲得のため東京都内の各区役所、県内病院に問い合わせを行なった。
リフト浴と車椅子用電動昇降機を導入し安心してくつろげる入浴環境の構築と職員の負担軽減を図った。また、各居室の環境整備を安全面、衛生面に重点を置き計画的にすすめた。

職員不足から変則勤務が組めず、管理職のバックアップを受けながら一時的に準夜勤、深夜勤を導入した。

(2) 年間退所・入所状況

退所日	性 別	支援機関	入所日	性 別	支援機関
10月2日	男性	板橋区	2月1日	男性	渋川市
			3月1日	男性	渋川市

(3) 重点目標に対する取り組み

①利用者支援の向上を目指す

- ・館内のワックス掛けと網戸の整備、清掃を実施した。散乱している居室内のレイアウトを変更し安全に行動できるように整備した。
- ・リフト浴と段差解消機を導入し、利用者が安全に安心して生活できる環境の構築と職員の負担軽減を図った。

(4) 利用者支援

①生活介護・施設入所支援

ア 生活支援

- ・昨年同様に、コロナ禍のため外出支援は行わず、段差解消機やリフト浴の導入、労B型への参加を促した。また、会食会も春、夏、秋、冬に実施して四季を感じられるように工夫した。

イ 機能訓練

- ・朝の体操は継続できたが、摂食嚥下機能の維持及び向上に関する体操を実施するまでいかなかった。
- ・理学療法士と連携し、生活の中で実施できる訓練内容をケース会議やリハカンファレンス等で検討し日常的に実施した。

ウ 創作・文化活動

- ・季節の果物を材料に取り入れた料理クラブ「ぴあっと」を月1回実施した。

- ・創作活動も「季節を感じる」をテーマに年間計画を立てて計画的に実施できた。作成した創作物は館内に飾り季節感を演出できた。

エ 生産活動

- ・一粒の麦の封入発送作業を実施したが納期の課題が出たため来年度の課題とした。

オ 医務面

- ・定期的な健康診断・検査・健康診断を行ない、異常が見られた利用者には医師の指示を仰ぎながら健康の維持管理を図った。
- ・生活支援員と看護師とで連携をとり、体調不良の利用者の早期発見、早期対応を行った。

・年間報告

月	項 目	内 容
5	利用者採血	(株) BML 28 名
6	利用者前期健康診断	嘱託医 28 名
7	深夜業従事者健康診断 利用者レントゲン	三愛クリニック (職員 4 名) 利用者 27 名
9	コロナワクチン 4 回目	利用者 22 名
11	インフルエンザ予防接種	利用者 26 名、職員 11 名
12	利用者後期健康診断	嘱託医 25 名
1	35 歳未満健康診断	三愛クリニック (職員 4 名)
2	コロナワクチン 5 回目	利用者 22 名
※生活習慣病予防健診 (35 歳以上の職員)		
※訪問歯科実施 (KK伊香保デンタル：毎週火曜日)		

・通院状況 (延件数)

内科	外科	歯科	耳鼻科	皮膚科	眼科	神経科	泌尿器科	整形外科	脳外科	循環器科	呼吸器科	他	合計
123	22	11	23	32	45	67	81	24	7	11	4	0	450

(令和 3 年度 467 件)

・園内治療状況 (延人数)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
550	523	495	465	497	471	401	615	471	4611	575	719	6,393

(令和 3 年度 5,924 人)

・医師診察状況 (延人数)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
16	11	28	14	12	33	10	11	27	26	13	15	246

(令和 3 年度 170 人)

・訪問歯科 (延人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
22	17	27	25	23	13	18	30	25	20	15	15	260

(令和3年度 245人)

・入院状況

氏名	病名	入院期間	病院
H.O.	脳出血	3/9～4/11	沼田脳神経外科
N.S.	尿路感染	3/13～3/22	有馬クリニック
T.K.	大腿部頸部骨折	3/23～4/13	渋川医療センター
T.N.	閉塞性黄疸	3/23～4/13	渋川医療センター
T.N.	ステント手術	5/2～5/19	渋川医療センター
Y.K.	検査入院	5/27～6/3	北毛病院
H.O.	イレウス	6/8～6/9	渋川中央
O.H.	慢性硬膜下血種	6/9～10/3	渋川医療センター
S.S.	尿路感染	6/26～7/2	有馬クリニック
S.S.	心不全、胸膜炎の疑い	7/8～7/25	渋川医療センター
K.I.	統合失調症	7/25～11/4	榛名病院
N.T.	ステント交換	8/17～8/25	渋川医療センター
N.T.	ステント交換	9/4～9/20	渋川医療センター
M.T.	白内障手術	9/27～9/28	北毛病院
N.T.	ステント交換	10/2～11/10	渋川医療センター
M.T.	白内障	10/11～10/12	北毛病院
S.H.	白内障手術	11/14～1/17	北毛病院
T.S.	検査入院	11/15～11/16	有馬クリニック
H.H.	左上腕部血栓	12/18～1/28	北関東循環器病院
T.K.	統合失調症、糖尿病	12/22～入院中	榛名病院
T.N.	胆管炎	12/27～2/20	渋川医療センター
K.H.	膜紋筋融解	1/10～1/23	榛名病院
K.I.	直腸がん手術	1/17～3/13	北毛病院
K.H.	服薬調整	1/23～入院中	榛名病院
K.I.	誤嚥性肺炎	3/17～入院中	北毛病院

カ 食事面

- ・利用者個人の健康状態や嚥下機能等に合わせて食形態を検討し提供した。さらに嚥下困難者への食事介助や自助具の導入、パーテーションを設置し食事環境への配慮を行なった。
- ・委託業者のもと、郷土料理などの行事食、選択メニューなどを定期的に提供した。
- ・グレイスホームが専用で使用しているお盆を耐久性と見た目を重視した素材に見直

し、新規で購入し再整備を進めた。

②年間行事報告

月	日	内容	月	日	内容
4	7	花見（旬味祭）	10	31	ハロウィン行事
6	29	親笑レク	12	23	クリスマス集会
7	29	納涼祭	1	5	自治会主催新年会
8	18	日中想定避難訓練	2	21	夜間想定避難訓練
8	25	旬味祭（自治会主催バーベキュー）	3	14	地震想定訓練

③建物設備整備状況

月	内容	月	内容
4	受水槽水質検査 中庭きんもくせい伐採	9	浄化槽モーター交換 浴室ガラリ閉鎖工事 キューピクル配電盤交換
5	消防設備点検 土手側外灯設置	10	害虫駆除
6	浴室前風よけシート設置 浴室段差解消機設置	1	居室ワックス掛け（空き3部屋） スプリンクラー点検
7	館内ワックス掛け	3	エアコン3基居室に設置 受水槽清掃
8	リフト浴設置		

（５）短期入所事業

①概要

コロナ禍ではあったが利用を再開し、グループホームでの生活で一時的に支援が必要になった利用者の受入や家の建て替えでの利用など、相談支援事業所と連携をとりながら対応した。

②年間利用状況

支援機関	実利用者数	性別	延べ利用回数及び日数	
渋川市	3名	男性・女性	7回	60日

・利用稼働率：16.4%（前年度 13.1%）

③重点目標に対する取り組み

ア 個別支援計画を本人・家族の希望や意見を確認しながら作成した。本人にとって安

心、安全な生活が送れるよう声掛けを行ない、体調不良時には通院等の支援を行なった。

イ 利用希望や施設見学の連絡を受けた際には、見学に来て頂けるように働きかけ、利用にあたっての相談等を行なった。

2. あけぼのホーム〔生活介護・施設入所支援事業〕

（1）概要

新型コロナウイルスの流行により買い物などの外出支援はできなかったが、近隣の公園へのドライブや、館内でできるレクリエーションやクラブ活動などを増やした。健康面での対応では、便秘対策として食事にファイバー（食物繊維）を混ぜて提供した。また、ケース毎に排泄に関する現任研修を実施した。施設内建物設備については、全館Wi-Fi工事を実施した。

（2）年間退所・入所状況

退所日	性 別	実施機関	入所日	性 別	実施機関
8 月 12 日	男 性	江東区	10 月 21 日	女 性	小平市
8 月 28 日	女 性	江戸川区	2 月 1 日	男 性	葛飾区
1 月 22 日	女 性	杉並区			
3 月 20 日	男 性	江東区			
3 月 24 日	男 性	品川区			

（3）重点目標に対する取り組み

①利用者支援の向上を目指す

- ・支援について検討する場を設けるために、担当の編成や会議の方法を見直す。
ケース会議を月 2 回、勤務表に組み込むことにより、利用者 1 人に対して 2 ヶ月に 1 回、支援の検討をできる体制にした。また職員会議やリハカンファレンスも同時に実施することができた。
- ・利用者の健康維持のため、便秘対策も含めた排泄支援を見直す。
スムーズな排便が困難な利用者が増加傾向のため、食事にファイバー（食物繊維）を混ぜて提供を開始した。さらにはケース毎に前期と後期に分けて排泄に関する現任研修を実施することができた。しかし、深い内容まで掘り下げることができず、また研修の内容を全職員に周知することができなかったため、次年度への課題となった。
- ・緊急時に使用するケース台帳の見直しを図り、終活も含めた検討を進める。
渋谷消防から依頼があった緊急時の対応シートをケース毎に作成すると共に、フェイスシートの更新を実施した。

（4）生活介護・施設入所支援事業

①生活支援

- ・利用者支援の変更については、統一した書式を使用し上申の手順も簡略化した。利用者の状況に応じて支援方法をスムーズに変更することができた。

- ・事故、インシデント、ヒヤリハットの内容を毎月職員会議で検討し、再発防止を含めた対応を全職員に周知した。

②リハビリテーション

- ・利用者一人ひとりの身体機能が維持できるよう、生活に活かすりハビリを計画して進めた。
- ・集団で楽しみながら機能維持を図るために、ボッチャやストラックアウト等を実施した。
- ・職員の腰痛予防として、朝・夕の腰痛予防運動を継続して実施した。

③日中活動

- ・週毎に提供する給茶や月1回のデザートの日、おやつレクなどで利用者が選択できるよう対応した。月1回のリトミックも継続した。

活 動	内 容
一粒の会	あけぼのコミュニティー教会牧師、スタッフの協力による賛美集会
文芸同好会	自作の俳句、短歌、詩を詠む。
カラオケクラブ	ゲーム機のオンラインでカラオケを使用し、各々の得意な歌を歌ったり、カラオケ大会へ向けての練習を行なう。
手芸会	ピン留めやカチューシャなどを作ったり、季節の貼り絵作り、編み物をしたりと利用者が色々な材料を使いながら楽しく、作品作りを行なう。
娯楽クラブ	テレビゲームの体感型ゲームやレクリエーションなど体を動かしながら楽しく行なう。

④健康管理

- ・毎日の検温に加えて、特に配慮が必要な利用者は、血圧測定、酸素飽和度の測定も継続した。また、入退院を繰り返す利用者に対しては、申し送りや連携を密接にして、状態の観察に努めた。
- ・新規入所者の受入時に家庭や病院等での様子を聞き取り、変化に応じた支援を他職種と連携を図りながら進めた。
- ・各月状況

月	内 容
5	前期健康診断事前検査実施（利用者）
6	採血（利用者） 前期健康診断実施（利用者）
7	胸部X－P（利用者） 深夜業従事職員健康診断（職員）

9	4 回目のコロナワクチン接種（利用者・職員） 聴打診（利用者）
9～3	生活習慣病予防健診（職員）
11	インフルエンザ予防接種実施（利用者・職員） 歯科検診（利用者）
12	耳鼻科検診（利用者） 後期健康診断事前検査実施（利用者）
1	後期健康診断実施（利用者） 5 回目のコロナワクチン接種（利用者・職員） 35 歳未満職員健康診断（職員）
2	5 回目のコロナワクチン接種（利用者・職員）

・通院状況（延べ人数）

内 科	外 科	耳 鼻 科	眼 科	皮 膚 科	神 経 科	泌 尿 器 科	呼 吸 器 科	脳 外 科	整 形 外 科	循 環 器 科	神 経 内 科	精 神 科	婦 人 科	合 計
49	27	9	9	18	0	110	2	8	13	18	3	15	0	281

（令和 3 年度 353）

・園内治療状況（延べ件数）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
606	707	649	692	636	637	659	635	687	591	615	637	7751

（令和 3 年度 7,956）

・医師診察状況（延べ人数）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
126	126	126	126	126	126	126	126	126	126	126	126	1512

（令和 3 年度 1,512）

・入院状況

氏 名	病 名	期 間	病院名
Y.A	敗血症 誤嚥性肺炎 尿路感染症	7/23～10/5 1/1～2/8 3/23～	北毛病院
H.A	尿路感染症	9/14～9/22	渋川医療センター
A.O	脳梗塞 転院	9/5～10/28 10/28～3/20	沼田脳神経外科病院 北毛病院
H.G	ステント交換	1/18～1/23	渋川医療センター
K.S	第 2 頸椎骨折	12/21～3/6	老年病研究所附属病院

K.S	高次脳機能障害	3/4～5/16 7/4～8/22	榛名病院
A.S	統合失調症	8/8～1/11	榛名病院
R.T	誤嚥性肺炎	11/25～3/24	前橋赤十字病院
Y.T	誤嚥性肺炎	10/6～10/18 11/11～12/1	北毛病院
S.N	誤嚥性肺炎	1/23～8/12	北毛病院
H.M	大腸癌	5/6～5/23	渋川医療センター
R.A	肺炎 下血	2/16～3/10 3/23～	北関東循環器病院 北毛病院
M.A	洞不全症候群	3/7～3/15	北関東循環器病院

・訪問歯科状況（延べ件数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
62	47	60	51	60	63	63	70	58	66	52	56	708

（令和3年度 768）

⑤食事

- ・委託業者の企画したイベント食や、選択メニューなどを提供し、利用者からも好評であった。
- ・食器の定期購入や厨房機器のメンテナンス等、使用頻度の高いものから随時買い換えを行ない、厨房の職員が使いやすい環境整備に努めた。
- ・利用者の身体状況、嚥下機能を摂食嚥下専門医や他職種と連携しながら確認し、個々に適した食事提供や支援を実施した。

【常食】

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
エネルギー	1,613	1,597	1,604	1,570	1,563	1,565
蛋白質	60.1	59.6	62.4	63.0	62.0	61.1
脂質	45.2	43.9	44.9	45.0	45.0	44.7
塩分	8.3	8.2	5.1	8.4	8.2	8.4
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
エネルギー	1,562	1,550	1,571	1,560	1,567	1,558
蛋白質	60.9	61.4	61.3	60.2	62.6	61.0
脂質	45.0	44.0	44.7	41.9	43.5	43.5
塩分	8.4	8.2	8.1	8.6	8.3	8.4

【軟菜食】

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
エネルギー	1,402	1,398	1,404	1,380	1,368	1,378
蛋白質	51.1	50.2	52.4	52.8	53.7	52.4
脂質	43.7	43.9	44.9	45.2	44.0	44.1
塩分	7.3	8.2	8.4	8.8	8.4	8.7
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
エネルギー	1,373	1,369	1,380	1,379	1,378	1,361
蛋白質	51.9	52.5	51.4	52.0	53.2	51.9
脂質	44.7	43.7	44.7	43.9	43.4	42.6
塩分	8.8	8.4	8.6	8.3	8.6	8.8

⑥年間行事報告

月	日	内容	月	日	内容
4	13	花見	10	5 12	地域サービスデイ 館内ワックス
5			11	9 16,30 20～23	館内ワックス インフルエンザ予防接種 チャリティ絵画展
6	13 21 29 30	地域サービスデイ 日中想定防災訓練 レクリエーション大会 利用者聴打診	12	7 7,14 23	年末会食会 耳鼻科検診 クリスマス集会
7	6 13	利用者胸部レントゲン 館内ワックス	1	11 24,27 25	新年会 35歳未満職員健康診断 5回目コロナワクチン接種
8	3	暑気払い	2	10	5回目コロナワクチン接種
9	7,12 14,28 21	利用者聴打診 第三者評価 館内ワックス	3	13 24	夜間想定防災訓練 地震想定防災訓練

(5) 建物設備整備状況

- ・全館 Wi-Fi 設置工事を実施した。
- ・館内のトイレ、エアコン、浴室の清掃を業者に依頼して実施した。

(6) 短期入所事業

①重点目標に対する取り組み

- ・利用者、ご家族が安心して利用できるよう、サービス担当者会議を実施。相談支援事業所ぶどうの木とも調整を行ないながら対応を進めた。
- ・目黒区の短期入所利用者が東京都の入所施設へ移行するまで利用した。新規入所施設への入所準備を進めた。

②利用状況

〔短期入所事業〕

支援機関	実利用者数	性別	のべ利用回数	のべ利用日数
渋谷市	0名		0回	0日
合計	0名		0回	0日

利用率 0%

〔目黒区重度身体障害者短期入所事業委託〕

支援機関	実利用者数	性別	のべ利用回数	のべ利用日数
目黒区	0名		0回	0日
合計	0名		0回	0日

3. めぐみの里〔生活介護・施設入所支援事業〕

(1) 概要

7月に職員が入所者に対して「身体的虐待」をし、傷害罪で逮捕される事件を起こしてしまった。その後の対応についても十分とは言えず、行政から指導・助言を仰ぎながら改善を進めている。

また、10月にはコロナクラスターが発生し、C-MATの助言を受けながら感染対策を行った。

(2) 年間入退所状況

退所日	性別	実施機関	入所日	性別	実施機関
7月4日	女	前橋市	9月1日	男	安中市
			9月5日	男	渋川市
			10月31日	女	玉村町
			12月9日	女	中之条町

(3) 重点目標に対する取り組み

①一人ひとりが、一つひとつの業務を確実に丁寧に継続的に行ない、実行を積み上げていく

(利用者支援における基本動作、記録・文書管理、報連相、情報の共有化、スピード感など)

・「基本の徹底」5月より毎月テーマを決め、朝礼時や業務日誌にて申し送りを行ない取り組んだ。しかし、職員に対して、どのように取り組んだかの確認はしなかった。

②利用者支援における基本動作を再確認するために、危険予知訓練を継続的に行なうとともに、改善の視点でハード面・ソフト面を常に見直す。また、役職者・ベテラン職員は、現場を見ながらOJTをし、タイムリーかつピンポイントに指示・指導をする。

・現任研修として、危険予知トレーニングを実施した。

・利用者の生活の場で危険な箇所をチェックし、できる範囲の修繕を行なった。

③特に利用者個々の身体拘束・行動制限の内容や必要性については、ブロック会議・職員会議で毎回確認すると共に、正しい知識・対処法を学ぶ機会を意図的に設ける。

・ブロック会議や職員会議で身体拘束、行動制限のある利用者の解除に向けた話し合いを行なった。その結果、20件あった身体拘束、行動制限を9件解除できた。

(4) 生活介護事業・施設入所支援事業

①生活支援

・虐待の件について、「行動障害に対する支援が統一されず個人の力量に頼った業務

になっていた」「職員が手薄になる時間帯への対応が十分ではなかった」「見守りカメラの運用面で当初の目的を果たしていなかった」などの課題が挙げられた。見守りカメラについては、設置目的を再度徹底し、利用者のけが等があった時には確認するようになった。また、職員配置を見直し、看護師1名が早勤で出勤することで手薄であった朝食時の改善を図ったり、起床介助が女性職員1名体制だった3階フロアーを利用している重度の利用者1名を2階フロアーへ移動すると共に、夜勤リーダーが一定時間3階の支援に入るように改善した。

- ・コロナ禍のため、昨年に引き続き利用者の帰省、外出は制限したが、面会は県の警戒度に応じて対応したことで多くの利用者が家族と面会ができた。キラキラレクや納涼祭はオンラインで実施され楽しむことができた。しかし、バザーはコロナクラスターと重なり参加することができなかった。

②健康管理

- ・10月のコロナクラスターでは、利用者68名（入院者5名）、職員15名が感染した（9/31～10/24までの25日間）。交代勤務職員への感染が拡大し、法人内施設から2名の職員が応援職員として派遣され、交代勤務に入り、利用者支援を行なった。
- ・気のゆるみから感染予防の「基本の徹底」や「注意喚起」などが疎かになったことでコロナクラスターにつながった。クラスター後は、基本の徹底について注意喚起をしながら感染予防に努めた。
- ・昨年度に引き続き、嘔吐下痢症やインフルエンザ等の感染症流行を防げた。
- ・嘱託医協力の下、利用者・職員の新型コロナウイルスのワクチン接種（4、5回目）、インフルエンザ予防接種を実施した。
- ・年間報告

月	項 目	内 容
5	利用者採血	ビーエムエルで検査
6	利用者定期結核健康診断 利用者前期健康診断	渋川保健福祉事務所 嘱託医
7	深夜業従事者健康診断	三愛クリニック
9	コロナワクチン接種（4回目）	嘱託医
11	インフルエンザ予防接種 耳鼻科検診	嘱託医 川島医師
12	利用者後期健康診断	嘱託医
1	35歳未満職員健康診断	三愛クリニック
	コロナワクチン接種（5回目）	嘱託医
※	生活習慣病予防健診（35歳以上の職員）	

※毎週、嘱託医（井口Dr）が来園

※奇数月に摂食嚥下専門医（山川Dr）が来園

・通院状況（延人数）

内科	外科	歯科	耳鼻科	皮膚科	眼科	精神科	泌尿器科	整形外科	脳外科	循環器科	呼吸器科	他	合計
59	8	4	14	34	28	63	82	57	20	0	0	15	384

（令和3年度 370件）

・園内治療状況（延人数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
392	452	504	604	582	526	221	376	428	440	400	532	5,457

（令和3年度 5,486人）

・医師診察状況（延人数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
嘱託医 3	3	3	12	1	5	2	8	3	2	3	5	50
歯科 47	41	46	44	46	37	6	36	40	38	38	43	462

（令和3年度 嘱託医 39人）

（令和3年度 歯科 604人）

・入院状況

氏名	病名	入院期間	病院
M.C	アテローム性の脳梗塞	R4.2.28～R5.7.4	前橋城南病院
I.N	誤嚥性肺炎	R4.4.14～R4.5.23	渋川医療センター
T.M	急性腎盂腎炎	R4.4.19～R4.4.27	有馬クリニック
T.M	腎盂腎炎	R4.6.17～R4.6.27	有馬クリニック
M.K	低ナトリウム血症	R4.8.24～R4.8.27	渋川医療センター
I.M	SPO2低下（コロナ感染）	R4.10.4～R4.10.27	前橋赤十字病院
I.T	嘔吐（コロナ感染）	R4.10.5～R4.10.15	渋川医療センター
M.K	低ナトリウム血症 （コロナ感染）	R4.10.6～R4.10.11	渋川医療センター
M.K	低ナトリウム血症	R4.10.11～R4.10.15	群馬県立精神医療センター
W.T	SPO2低下（コロナ感染）	R4.10.7～R4.10.19	渋川医療センター
W.T	嚥下困難	R4.10.19～R4.11.24	北毛病院
S.A	SPO2低下（コロナ感染）	R4.10.11～R4.11.4	群馬県立精神医療センター
S.A	嚥下困難	R4.11.4～R5.2.3	北毛病院
W.T	重責発作	R5.1.27～R5.3.17	渋川医療センター
W.T	癲癇発作	R5.3.17～	北毛病院
S.A	意識障害	R5.3.18～	渋川医療センター

※骨折事故：5件、裂傷事故3件、無断外出：1件、職員労災事故：2件

③食事

- ・脂質異常の利用者に提供していた「マンナンご飯」を令和3年末より中止をした。
令和4年春の健康診断で変化がなかったため提供を終了した。
- ・「ご飯及びみそ汁のおかわり」を感染対策・食品ロス・栄養管理・介助、服薬に集中するために終了した。
- ・ペースト食が増えたため、業務用ハイパワーミキサーを購入した。
- ・厨房の給湯器が続けて不具合が生じたため1年早めて買い替えをした。
- ・経年劣化のため、冷蔵ショーケースとガステーブルの買い替えを行なった。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
エネルギー (kcal)	1911	1904	1840	1854	1846	1853
蛋白質 (g)	71.4	70.8	70.8	70.7	70.9	70.7
脂 質 (g)	49.5	49.7	49.6	49.9	49.7	50.2
塩 分 (g)	8.8	8.9	8.9	8.9	9.0	8.7
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
エネルギー (kcal)	1835	1845	1854	1841	1852	1849
蛋白質 (g)	70.1	71.3	71.3	71	71.5	71.9
脂 質 (g)	49.0	49.3	50.6	49.3	49.6	49.6
塩 分 (g)	8.9	8.9	8.9	8.8	8.9	8.9

④年間行事報告

月	日	内容
4	12	花見
5	18	めぐみの里シアター
6	8	Uレク
	13	地域サービスウィーク（三角公園付近の除草作業）
	15	キラキラレク
7	29	オンライン納涼祭
9	15	Uレク
11	10	Uレク
12	24	クリスマス集会、クリスマスティーパーティー
1	4	新年会
2	3	節分
3	17	Uレク
	18	防災訓練（日中想定）

※コロナ禍のため、家族連絡会は中止した。また、ナイスハートフェア、福祉パレードも中止になった。障害者スポーツ大会はコロナ禍のため不参加とした。

（５）建物設備整備状況

月	内 容
4	簡易専用水道定期検査、浄化槽 11 条検査、窓ガラス・2,3 階のベランダ清掃 食堂排煙装置修理、日産ノートタイヤ新規交換
6	厨房ガステーブル交換、厨房冷蔵ショーケース交換、害虫駆除（西武消毒） 居室壁修理
7	受水槽一部修理
8	見守りカメラモニター2 台設置、日産ノート車検
9	高架水槽一部修理
10	アトラストラック車検

11	イルミネーション取り付け・樹木剪定（勢多造園） 浄化槽ポンプモーター交換
12	居室鍵設置
1	しらねトイレ便器交換、しらねスタッフルーム混合栓交換、厨房食洗器修理
2	ほたかトイレ便座及び便器交換、パソコン SSD 増設工事及び交換、電気錠修理 居室カーテン設置（2 部屋）
3	浄化槽汚泥引抜（南群馬浄化槽サービス）、受水槽清掃(日化メンテナンス)、エレベータ室内壁漏水補修工事、屋上高架水槽下屋根防水補修工事、

第4章 障害福祉サービス事業所

1. ベテル〔就労継続支援事業B型事業〕

(1) 概要

新型コロナウイルスの感染拡大が継続した一年となり、11月15日に利用者1名が陽性となった。そのため、11月16日から11月18日までの3日間、通所サービスを停止した。その後の感染拡大はみられなかった。

建物設備関係の工事を実施。6月に赤蜻蛉の照明をLEDへ交換。7月に赤蜻蛉のエアコンの入れ替えと内装工事を行なった。10月にはMGMの暖房ボイラーの交換工事を行なった。

作業面では、2月に渋川小野上特産物加工所が事業を終了することに伴い、新規事業所として応募し、3月15日に応募事業所へのヒアリングが開催された。審議の結果、選定外となった。

販売班、軽作業班、製袋班の3班は、単独でプラス収支を達成することができなかった。印刷班は資材の高騰があったものの、新しいオンデマンド印刷機導入による印刷コスト圧縮によりプラス収支を達成。平均工賃は25,394円の結果となった。

(2) 年間退所・入所状況

退所日	性別	支援機関	入所日	性別	支援機関
7月14日	男性	吉岡町	6月27日	女性	渋川市
9月25日	男性	渋川市	7月5日	男性	渋川市
12月31日	女性	渋川市	10月3日	男性	渋川市
2月28日	男性	渋川市	12月21日	男性	渋川市
			12月26日	男性	渋川市

(3) 重点目標に対する取り組み

①平均工賃22,500円を達成する

・平均工賃は、25,394円（前年比231円の増）目標である22,500円を達成することができなかった。

・各班年間売上と平均工賃

班名	令和4年度売上実績	令和3年度売上実績	前年比
印刷班	24,893,880円	22,218,369円	+2,675,511円
販売班	1,059,430円	1,106,020円	-46,590円
軽作業班	2,799,836円	3,092,498円	-292,662円
製袋班	4,682,680円	4,990,840円	-308,160円
各班合計	33,435,826円	31,399,727円	+2,036,099円

平均工賃（月額）	25,394 円	25,163 円	+231 円
----------	----------	----------	--------

②新規作業を開始する

- ・株式会社丸進梱包（平出紙業のグループ会社）より贈答用の箱折り作業の依頼があり、3月14日より試行として作業を開始した。スポット作業にはなるが、引き続き様々な作業の紹介をいただけることになった。
箱折り作業については、利用者3名が携わることができた。

（４）各班収支状況

①印刷班

- ・年間売上額：約 2,480 万円（前年比：111%）。目標値は前年度限定の単発案件を除外して試算しており、目標額約 2,200 万円としていたため、達成率は 112%となった。
- ・一般印刷以外の作業導入に関して、いくつかの候補の中からガーメントプリント（布地への印刷）に絞り込んだ。全体の収支を考慮し、機材導入までは到らなかったが次年度は確実に導入し、稼働を始める。

②販売班（取り組み目標に関する内容を記載）

- ・年間売上額は約 100 万円（前年比：約 95%）目標達成率 110%となった。
- ・ベテルコーヒーを使用したデザートの販売までには至らず、まずはベテルコーヒーを知っていただくためにも、イベントなどに参加した。
- ・10月19日～10月21日、渋川市主催みんなの福祉事業展で3日間販売を行なった。3日間での売上金額は約 6 万円。
- ・11月5日～11月6日ハワイアンフェスにて販売を行なった。2日間での売上金額 9,800 円。
- ・12月から3ヶ月間販売 美容室 color's hair make 売上金額 26,500 円。
- ・1月28日しきしまパン祭り販売を行なった。売上金額 7,200 円。
- ・3月26日シキシマエキマエピクニックで販売を行なった。売上金額 5,400 円。

③軽作業班

- ・年間売上額は、約 280 万円（前年比：約 91%）、目標達成率は 107%だった。内訳としては、銅箔とアルミの分別作業・解体作業が 139 万円。発泡スチロールのテープ留め作業と排水溝部材の梱包作業を合わせて約 110 万円であった。（前年比：約 166%）
- ・昨年度から開始したガスボンベの梱包作業の売上額は約 30 万円であった。9月以降商材の入荷がなく、売上額は昨年度の半分となった。
- ・発泡スチロールのテープ留め作業については、12月以降は商材の入荷量が減少した。

④製袋班

- ・年間売上額は約 470 万円（前年比：94%）月平均では、約 39 万円となり、目標達成率は約 74%だった。総発送枚数は、約 852 万枚（前年比：約 87%）。昨年に続き、売上額、発送枚数ともに回復することができなかった。
- ・6 月 24 日、12 月 9 日にシモジマ本社を訪問し、商品部の方と打ち合わせを行なったが、郵便封筒の需要減により、今後も発注量の大幅な増加を難しい見通しであるとの話があった。今後、郵便封筒に代わる商品の生産に向けた検討をすることになった。

（５）利用者支援

①作業支援

ア 印刷班

- ・各自、個別支援計画に掲げた目標に対する支援を実施。特に新しいオンデマンド印刷機の操作を目標とした利用者は計画的に習得することができた。

イ 販売班

- ・ベテルコーヒーのドリップバッグ作製について、1 名の利用者が全ての工程を覚えることができた。

ウ 軽作業班

- ・12 月に新規利用者 2 名が所属し、解体作業や発泡スチロールのテープ留め作業など、以前に比べよりスピーディーに作業をすすめることができた。
- ・サイズが大きい板状の銅箔剥がしでは、萬力を使用し利用者が単独で銅箔を剥がしやすいような支援を行なった。

エ 製袋班

- ・封筒チェックを担当する利用者 2 名に対して、不良を意味する言葉や内容の再確認、不良を見分ける方法等の支援を重点的に行なった。また、封筒の袋入れを行なっている利用者に対して、新たに封筒チェックを覚えてもらえるような支援を開始した。

④行事・集会開催状況

月	日	内 容	月	日	内 容
4	15	春季日帰り旅行	11	10	秋季日帰り旅行
6	29	親笑レクリエーション大会	12	28	慰労会
7	29	全体行事としての納涼祭	1	4	利用者新年会（お祝い膳）

(6) 健康管理

①年間報告

月	日	項 目	備 考
4	27	血圧・体重測定	
5	27	利用者採血	恵の園看護師
	25	血圧・体重測定	
6	22	血圧・体重測定	
	29	レントゲン検査	レントゲン車（利用者 14 名）
7	14	前期健康診断聴打診	嘱託医（利用者 22 名）
	22	血圧・体重測定	
8	24	血圧・体重測定	
9	9	コロナワクチン 4 回目	嘱託医（職員 4 名 利用者 14 名）
	28	血圧・体重測定	
10	26	血圧・体重測定	
11	30	血圧・体重測定	
12	16	後期健康診断聴打診	嘱託医（利用者 24 名）
	16	インフルエンザワクチン接種	嘱託医（職員 9 名 利用者 18 名）
	16	コロナワクチン接種 5 回目	嘱託医（職員 6 名 利用者 17 名）
	21	血圧・体重測定	
1	25	血圧・体重測定	
2	28	血圧・体重測定	
3	28	血圧・体重測定	

※ 9 月・1 月 生活習慣病予防検診実施（35 歳以上の職員）

(7) 日中一時支援事業

・利用者なし。

2. エステル〔就労継続支援事業B型事業・生活介護事業〕

(1) 概要

ご逝去や新型コロナウイルスの影響で登園できなくなり2名の利用者が退所となった。7月下旬に新型コロナウイルス陽性者が職員・利用者ともに出てしまい10日間ほどの事業を停止したが、各市町村と連絡を取り在宅支援へ切り替え支援を継続した。また、ケガや精神不安による長期入院がありエステル全体で利用率の低下が著しい状態となってしまった。

就労継続支援B型では、パン工房マンナで新商品の開発や特別支援学校への外部販売、売店や職員販売を実施。また、渋川市の地域活性化事業に出店した。生活介護では、生産活動を継続。新規の利用者もいたため活動内容の見直しを行なった。

(2) 年間退所・入所状況

退所日	性 別	実施機関	入所日	性 別	実施機関
5月16日	男性	渋川市	3月2日	男性	吉岡町
2月3日	女性	玉村町	3月6日	男性	宇都宮市
			3月27日	男性	日野市

(3) 重点目標に対する取り組み

①就労継続支援事業B型

平均工賃14,000円を目指す

- ・作業収入はコロナの影響で事業停止となりクリーニングやマンナの収益が低下してしまった。工賃については、ほぼ変わらなかったが、目標には届かなかった。
- ・生産活動売上と平均工賃

生産活動内容	令和3年度実	令和4年度実績	前年比
公園清掃	921,360	880,000	-41,360
クリーニング事業	5,632,600	5,462,500	-170,100
パン工房事業	3,395,785	3,219,690	-176,095
軽作業事業	2,163,246	2,841,679	678,433
合 計	12,112,991	12,403,869	290,878
平均工賃（月額）	13,546	13,504	-42

（単位：円）

②生活介護事業

ア 活動内容を充実させる。

- ・日課は、午前は運動、午後は創作・レクリエーションを継続した。利用者の状況の変化に対応し運動のグループ分けを変更した。外部講師による月1回のリトミックはなかなか関われなかった利用者も参加できるようになった。毎月のレクリ

エーションの企画も継続した。外部関係は新型コロナウイルス感染予防の為、実施せず。ビニールハウスにて花を種から育成した。他事業所の短期入所を利用する方については、相談支援事業所ぶどうの木と連携を取りあった。

（４）利用者支援

①就労継続支援事業Ｂ型

〔生産活動支援〕

パン事業では、週４日の営業や外部販売をしたことで収入は増えたが、課題であった支出について、価格の高騰や水道光熱費の増額もありマイナス計上となってしまった。商品開発に取り組み、ピザの新商品を販売ができた。外部販売については、隔週であるが渋川特別支援学校で実施することができた。また、渋川市の地域活性化事業に参加し、マンナの収益に貢献した。軽作業については新型コロナウイルス感染の影響はあまりなく、昆布の作業を日常的に提供する事ができた。公園清掃事業は継続して作業ができた。クリーニング事業については昨年同様であった。また興奮し作業が困難になってしまった利用者や作業を拒否する利用者に対し、落ち着いて作業ができるよう、毎日の声掛けを継続的行なったり、席替え、衝立等で落ち着いて作業できる環境作りを行なった。

〔生活支援〕

ア 利用者対応

- ・生活習慣の乱れや着衣の乱等ある利用者に対し改善が図れるよう、声かけ等の支援を行なった。
- ・レクリエーションとして、日帰り旅行、会食会、夏・冬の外出等はコロナ感染症予防の関係で昨年同様全て中止し、施設内で楽しめる行事を充実させ実施した。

イ 通所支援

- ・通所支援として、１日４便の送迎便を運行。利用者の状況に合わせルートや席順を変更しつつ送迎した。

ウ 保健衛生支援

- ・保健衛生支援として、毎月の体重血圧測定、年２回の定期健康診断、インフルエンザの予防接種や胸部レントゲン撮影を実施した。冬季は感染症予防のため加湿器設置、毎日の検温及び手洗いうがいの徹底を図った。また、新型コロナウイルスの流行に伴い、検温のほか登園・外出時に手指消毒及び空間除菌器の使用は継続した。

エ 給食支援

- ・給食支援として嗜好調査を行ない、可能な範囲で希望のメニューを取り入れた。また、選択メニューを月２回実施した。外部委託業者（グリーンヘルスケアサービス）と共に、毎月会議を行ない、給食での指摘事項について検討した。

オ 家庭との連携

- ・家庭との連携として、連絡帳を毎朝確認し、特記がある場合は、朝礼で職員に周知すると共に、家庭へ電話での連絡を行ない情報の共有化を図った。
- ・グループホーム・ケアホーム利用者については、サービス管理責任者や世話人と連携を密にとった。また、エステルだよりは毎月発刊した。

②生活介護事業

ア 利用者対応

- ・日課は、午前は運動、午後は創作活動やレクリエーションを継続した。但し、利用者の状況にあわせて午後も運動するなどした。入浴は女性利用者2名を対応した。

イ 機能訓練・運動

- ・個々の身体状況に合った運動メニューやグループホームでの入浴方法などを理学療法士と検討した。

ウ 創作的活動

- ・生活介護の出入り口と玄関に作品を展示した。

エ 生産活動

- ・花の苗を育成、販売した。

オ 生活相談及び援助

- ・送迎時やサービス担当者会議等を通じ、家族との情報交換を密接にした。
- ・利用者の状態を細かく観察し変化に対応した。

カ 行事・社会活動支援

- ・毎月のレクリエーションは新型コロナウイルスでほとんど室内で実施した。

③建物設備整備等実施状況

実施月	内 容
4	害虫駆除 電気設備点検
5	消防設備点検 電気設備点検
6	消防設備点検 電気設備点検
7	電気設備点検 害虫駆除
8	スプリンクラー修理・点検
9	電気設備点検 浄化槽保守点検

10	汚泥引き抜き 浄化槽 11 条検査 害虫駆除 浄化槽保守点検
11	消防設備点検
1	電気設備点検 害虫駆除
2	スプリンクラー点検
3	電気設備点検

④年間行事報告

月	日	内 容
4	1 28	令交付式 お花見（渋川市総合公園）
6	6 14 15 29	採血 地域サービスウィーク キラキラレク 利用者レントゲン撮影、聴打診
7	30	レクリエーション（焼きまんじゅうの会）
9	17 26	夏季レクリエーション（施設内） 防災訓練
10	4	地域サービスウィーク
11	2 17	秋季レクリエーション 聴打診・インフルエンザ予防接種
12	16	会食会（施設内）
2	22	魚の解体ショー
3	13	防災訓練

（４）日中一時支援

高崎市から新規利用者で 8 月に 2 回、3 月に 2 回の希望があり受け入れを行なった。

3. シャローム [就労継続支援B型事業]

(1) 概要

利用者の安全を第一に考え、利用者の働く意欲と生産力の向上を目標に支援を行なった。生産活動では、初夏にリンゴの一部が雹の被害を受けたことと初秋に病害が発生したこと、白小豆が猪の被害を受けたことなどが影響し、売り上げは伸び悩んだ。

(2) 年間入退・所状況

入所日	性別	支援機関	退所日	性別	支援機関
10月24日	女性	渋川市	10月11日	男性	渋川市
2月1日	男性	渋川市			

(3) 重点目標に対する取り組み

①月額平均工賃 25,000 円を目指す

- ・りんごは、若干雹の被害が出たこと、一部の品種に病気が発生したこともあり売り上げは目標に届かなかった。野菜は、ほうれん草は順調であったが、枝豆が春先に霜の影響を受けたこと、早出しの出荷が各地から集中し値段が上がらなかったことなどが影響し減額。白小豆も作付面積を増やしたが猪の被害を受け、思うような売り上げにならなかった。
- ・コロナ禍、平成3年度の収入減を踏まえて、平均工賃算定を22,000円に下げて設定。肥料や資材の高騰を踏まえてりんごや加工品を値上げ、作付面積を増やして売り上げ増を図ったが、全体の生産活動収入は前年比88.8%の7,484,416円にとどまった。支出は資材高騰を考慮し事前購入や節約に努め前年比86.4%の8,520,448円に抑えることができたが、当期損益は1,036,032円の赤字。月額平均工賃は19,271円にとどまり目標を達成できなかった。

・生産活動売上と平均工賃

生産活動内容	令和4年度実績	令和3年度実績	前年比
りんご	4,551,440	5,410,346	84%
野菜	2,342,868	2,240,347	104%
加工品	336,300	527,070	63%
清掃委託	252,000	252,000	100%
合 計	7,482,608	8,429,763	88%
平均工賃月額	19,271 (20名)	22,216 (19名)	86%

②作業面、生活面全般の環境整備を実施する

- ・暑い中、寒い中での作業を終えてシャロームに戻って来られる利用者の皆さんに、昼休みの短い時間だけでもリラックスして過ごしてもらえればと考え、エアコン、

ソファ、テレビ、ウッドカーペット、カーテン、照明器具などを新規購入し利用者休憩室を設置した。

- ・シャローム入口と沼尾川に面した道路に設置してある看板に錆が出始め、文字が見づらくなってきたため、錆の出ないアルミ合板を使用した看板に取り替えた。
- ・厨房機器のうち冷蔵庫、ガス台、フードプロセッサーを新規に購入・交換し、利用者の皆さんが楽しみにしている食事をより美味しく、安全に提供できるようにした。
- ・納品や利用者送迎用に軽バンの車両を購入した。

③新規利用者の獲得を目指す

- ・なんでも相談室への定期的訪問、支援学校への情報収集に努めた結果、4名の見学者のうち2名の新規利用に結び付いた。

(4) 利用者支援

① 生産活動支援

- ・朝礼、終礼また各作業現場等で注意を呼びかけ、大きな事故や怪我等を防止することができた。またヒヤリハットや苦情等を職員会議等で検証し、再発防止を図った。
- ・利用者個々の能力・適正を見極め、作業内容・作業配置を固定化することで、作業の効率化を図り、生産性を高めることができた。

②就労への移行に向けた支援・就労の機会の提供

- ・新型コロナウイルス感染に終息の気配が見え始めたこともあり地域のイベント開催が若干ではあるが以前に戻りつつある。市役所での販売会、敷島駅前の販売会に商品を提供。赤城行政センターの販売会には久しぶりに利用者を伴って参加した。

③生活支援・相談及び援助

- ・社会人として相応しい生活習慣や態度を身につけてもらうため、本人だけでなく家庭やグループホームから日頃の生活について情報提供を依頼した。衛生面では、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、手洗いの励行、マスク着用については、意識の向上が見られた。

④食事の提供

- ・嗜好調査や希望献立を可能な限り取り入れて、バラエティーに富んだ給食を提供した。
- ・季節ごとに新たなメニューを考案し取り入れることができ、利用者の楽しみとなっている。
- ・年齢、体格、労働量などを考慮し献立表を作成した。高齢の方の食事は食材を小さく切って提供、肥満対策としてご家族のご了解をいただいた上でご飯の量を減らすなどの対応を取った。食事指導については、個別に面談を行ない、一部の利用者

改善が見られた。

- ・食事の準備及び片付け、食事中のマナーについては、その都度声掛け等の支援を行ない、やや改善が見られた。

⑤健康管理

- ・毎月の体重測定、年2回の血圧測定、尿検査を行なうとともに、嘱託医による定期健康診断を実施し、疾病の予防、早期発見に努め、家庭やグループホームと連携して支援を行なった。

また、嘱託医協力の下、9月、12月に新型コロナウイルスワクチン接種を行なった。

⑥行事・社会活動支援

- ・市役所での販売会、赤城行政センターでの販売会に参加。学校等でのイベントは新型コロナウイルスの影響のため中止であった。

⑦建物設備等実施状況

- ・利用者休憩室を設置。シャローム入口と沼尾川に面した道路に設置してある看板を取り替え。冷蔵庫、ガス台、フードプロセッサーを購入。納品や利用者送迎用の車両（軽バン）を購入。

⑧年間行事報告

月	日	内 容	月	日	内 容
4	7	お花見	12	23	クリスマス集会
6	15	キラキラレク（リモート開催）	1	7	新年会
7	29	納涼祭（各施設開催）			

4. マイーム〔共同生活援助事業・共同生活介護事業〕

（１）概要

支援機関と連携を図り、入居前の体験利用を随時行なった。結果、3名の利用者が体験利用を行ない、そのうち1名が正式入所となり、空床の期間を短縮することができた。

（２）年間退所・入所状況

退所日	性 別	支援機関
5 月 25 日	男性	渋川市
1 月 19 日	男性	渋川市

（３）重点目標に対する取り組み

①緊急時に備えた準備をする

- ・緊急搬送時の情報提供書を作成する。
全利用者分の情報提供書を作成したが、不十分な箇所があるため来年度完成させる。
- ・災害避難時に持ち出す物のリストを作成する。
全利用者分の持ち出す物の一覧表を作成し、持ち出す物の物品についても準備を行なった。実際、物品を持ち込んでの避難誘導が行なえていないため、来年度に実施する。

②老朽化がすすんだ建物の対策を講じる。

- ・バルナバホームの引っ越しを具体的にすすめ、安心・安全な生活の場を確保する。
バルナバホームの引っ越しが白紙となったため、今後の引っ越し先を検討中。

（４）利用者支援

①生活支援

- ・利用者の高齢化、重度化に伴い介護保険サービスを利用する利用者の方が多くなり、その方に合わせたサービス提供を行なうことができた。
- ・各ホーム内での利用者間のトラブルを解消するため、グループホーム内の居室変更を行なった。居室変更を行なったことで利用者間のトラブルを解消することができた。

②健康管理

- ・新型コロナワクチン接種を各事業所と連携しながら2回(第4回目、第5回目)接種した。
- ・7月末にはさくらホーム、12月末にはダビデホーム利用者が新型コロナウイルスに感染した。嘱託医に指示を仰ぎながら対応を行なった。結果、重症化する利用者は

なく収束することができた。

(5) 特記事項

- ・さくらホームの2階の居室天井の修理を行なった。

(6) 年間行事等報告

月	日	内 容
5	18	消防設備点検（バルナバホーム、さくらホーム、ダビデホーム、クロスホーム）
8	26	スプリンクラー点検（ダビデホーム・クロスホーム）
11	21	消防設備点検（バルナバホーム、さくらホーム、ダビデホーム、クロスホーム）
2	27	スプリンクラー点検（ダビデホーム・クロスホーム）

※12月に外出支援を少人数で数回に分けて実施。

(7) コロナワクチン接種状況

内容	月	日
第4回目接種	9	2、9、13
	3	10、29
第5回目接種	12	7、14、16

第5章 相談支援事業

1. ぶどうの木

(1) 概要

利用者自身が望む自立した社会生活を支えることを目的とし、抱える課題の解決を行ない、本人に合った適切なサービス利用ができるようサービス等計画を作成した。一人ひとりの特性に合ったサービスが提供されているか、他に課題はないか定期的なモニタリングも行なった。

めぐみの里の虐待事件を受け、法人内の入所利用者について、サービス担当者会議等で利用状況や身体拘束等を確認し、虐待の早期発見に繋がるような取り組みを開始した。

入所施設、通所施設にてコロナウイルスの感染者が拡大したため、通所施設では利用者だけでなくご家族を含めて健康状態を確認し、サービス提供が滞らないよう調整した。

法人外利用者の利用者獲得については、地域課題となっている障害児の計画相談についても本格的に取り組むを開始し、契約者数が7名増加した。その他、障害者の契約者数も合わせると16名の増加となった。

介護保険と連携する機会が増え、みなし2号の方で介護保険サービスから障害福祉サービスへ移行するケースや、1人の利用者でケアマネージャーと相談支援専門員それぞれで計画を作成するケースもあった。

あけぼのホーム入所者2名、法人外利用者1名について、体験利用を経て日中サービス支援型のグループホームへ地域移行をした。

(2) 実施状況

全契約者数	新規契約者数	契約終了者数	サービス等利用 計画作成数	モニタリング 作成数
243名	16名	16名	196件	393件

(3) 重点目標に対する取り組み

①ふくし総合相談支援事業

- ・地域の方々が多く集まるイベントにて初めて出張相談会を開催し、なんでも福祉相談のPR活動を行なった。来場者へパンフレットやマスクを配布し好評であった。PR活動については来年度以降も定期的に出張相談会を行なうこととなった。今後も渋川地区にて継続して取り組みを行なっていくため、重点目標から一時的に外すこととした。

②指定一般相談支援事業

- ・単身で生活をされている法人外利用者2名に対して、定期的な訪問やサービスの利

用調整を行ない地域生活の安定するよう支援した。就労希望があった1名について、就労継続支援B型の利用を進めたが、コロナウイルスの感染拡大等の影響により、実習や利用に至らなかった。他1名については、地域定着支援の利用について進めたが、ご本人から了承が得られず利用には至らなかった。

- ・入所利用者2名について、体験利用を行ない日中サービス支援型のグループホームへ移行した。

③指定特定相談支援事業

- ・介護保険サービスとの連携について、障害福祉サービスと介護保険サービスを併用される方が1名いた。法人外の新規利用者で介護保険サービスから障害福祉サービスへ移行する方が6名いた。それぞれ、ケアマネジャーと連携しながら対応を進めた。
- ・利用者の重度化への対応について、グループホーム利用者で生活面での支援が増え、居宅介護支援サービスを開始される方が1名いた。
- ・群馬病院精神科へ入院中の法人外利用者1名について、担当ワーカーと連携し退院調整を行ない、体験利用を経て日中サービス支援型のグループホームへ移行した。

④障害児計画相談

- ・基幹相談支援センターのなんでも相談室と連携し、地域課題となっている児童の計画相談について取り組んだ。今年度事業が終了となった相談支援事業所から3件、その他なんでも相談室から依頼があった4件（計8件）について、新規契約した。

（４）業務計画に対する取り組み

- ・短期入所、移動支援、共同生活援助、通院介助、居宅介護（家事援助、身体介護）、日中一時支援等の希望があり、事業所の情報提供を行なった。
- ・在宅生活が継続できるようサービスの調整等を行なった。将来の生活を考え、必要なサービスの説明や緊急時にも利用できるよう短期入所等の体験利用を進めた。
- ・毎月の職員会議や週1回の定例の打ち合わせで、進捗状況や困難事例の検討を行なった。
- ・地域資源の確認や困難事例の相談等について、なんでも相談室、渋川広域の他の相談支援事業所、渋川市地域包括ケア課に確認した。
- ・相談支援部会、児童支援部会、発達障害者支援者研修、障害児計画相談研修、アセスメント作成研修等へ参加し、制度やサービスについての理解を深め、計画に反映させた。
- ・成年後見制度について、希望されたご家族へ制度の説明、相談窓口の紹介、申請手続き等の補助を行なった。

第6章 高齢者施設

1. カナン〔特別養護老人ホーム・短期入所生活介護〕

(1) 概要

年間で21名の利用者が入所となったが、退所の利用者が33名と多く、1年前に比べると全体の人数は減少となった。そのうち、亡くなられた利用者は25名とカナン開所後7年の間で、一番多い年度だった。1月にコロナクラスターが発生し、多くの利用者の身体機能の低下、体力の低下へ大きな影響を及ぼした。

(2) 年間退所・入所状況

<入所>

入所日	性 別	保険者	入所日	性 別	保険者
4月4日	男性	渋川市	12月20日	男性	高崎市
4月11日	男性	渋川市	2月20日	女性	渋川市
4月27日	男性	渋川市	2月20日	女性	渋川市
6月22日	男性	渋川市	2月20日	男性	渋川市
9月26日	女性	渋川市	2月21日	女性	渋川市
9月29日	女性	渋川市	2月21日	女性	渋川市
10月3日	男性	板橋区	2月24日	女性	渋川市
10月6日	男性	渋川市	3月10日	男性	渋川市
10月11日	女性	東吾妻町	3月17日	女性	渋川市
11月21日	男性	中之条町	3月23日	男性	渋川市
			3月30日	男性	渋川市

<退所>

入所日	性 別	保険者	退所日	性 別	保険者
4月26日	男性	渋川市	11月8日	男性	渋川市
6月8日	男性	渋川市	12月10日	女性	渋川市
6月23日	女性	渋川市	12月19日	女性	渋川市
7月9日	男性	渋川市	1月6日	女性	藤岡市
7月19日	男性	渋川市	1月7日	男性	渋川市
8月10日	女性	渋川市	1月11日	女性	昭和村
8月15日	男性	渋川市	1月13日	女性	渋川市
8月23日	男性	渋川市	1月15日	男性	渋川市
8月25日	男性	高崎市	1月17日	女性	渋川市
9月8日	女性	渋川市	1月18日	男性	板橋区

9月10日	女性	渋川市	1月19日	女性	渋川市
10月5日	男性	渋川市	1月29日	女性	渋川市
10月5日	女性	渋川市	2月6日	男性	渋川市
10月7日	女性	吉岡町	3月6日	男性	渋川市
10月10日	女性	練馬区	3月22日	男性	渋川市
11月7日	男性	渋川市	3月25日	女性	東吾妻町
			3月31日	女性	渋川市

(3) 重点目標に対する取り組み

①利用者支援の向上を進める

- ・基本的な支援が習慣化できるよう、月ごとにテーマを決め重点的に取り組んだ。
- ・介護リフトの使用方法、手順の確認をした。
- ・利用者それぞれの移乗方法の確認をした。
- ・利用者数の増減に合わせて、入浴方法や待機方法の変更を行なった。

②家族との関係性を深める

- ・ガラス越し面会を継続。面会に来ていない家族にも声を掛け、来園していただけるようにした。
- ・大きな状態の変化があったタイミングには、必ず家族に連絡し状態の報告をした。
また、大きな変化がない利用者の家族にも、面会や支払いなどの来園時に状態の報告をした。
- ・近況報告として、家族あてに手紙と写真を送った。

③地域の方との交流を持ち、利用者の生活の幅を広げる

- ・地域の方との交流は行なえなかった。
- ・1階フロア、ラウンジの使用を開始した。

(4) 利用者支援

①介護

ア 生活支援

- ・利用者、家族、他職種で話し合いながら、個々のケアプランに即した支援を実施した。
- ・インカムを活用し、フロア内での職員の連絡等がスムーズに行なわれるようになった。また、朝礼、終礼、勤務交代の申し送りもインカムを活用している。
従い対応した。

イ 虐待・身体拘束

- ・委員会は月1回開催した。

- ・5月に虐待防止、8月と3月に身体拘束廃止の現任研修を実施した。

ウ 事故防止

- ・委員会を月1回開催した。
- ・9月と2月に現任研修を実施した。今後も年2回の研修を継続する。

エ 看取り

- ・3月に現任研修を実施した。今後も年1回の研修を継続する。

オ 余暇活動（創作・文化活動含む）

- ・春を楽しむ会（花見）、夏祭り、秋を楽しむ会（焼き芋、焼きリンゴ作り）、敬老の日、望年会、クリスマス、正月、節分（豆まき）、ひな祭りなど装飾や季節行事を行なった。外部ボランティアの協力のもと、リトミック（合唱）を実施。

カ 生活環境

- ・利用者の安全を留意した居室レイアウトを行なった。
- ・共有部分に、創作作品や季節の飾り等を装飾した。

キ 防災

実施日	内容
8月3日	日中火災想定訓練（合同）
12月15日と2月27日	夜間火災想定訓練（合同）

②食事

ア 季節食

- ・利用者の方に季節変化を感じていただけるように、旬に合わせた献立や各季節の行事に合わせた食事提供を行なった。
- ・昼食選択メニューを月に1回取り入れ、利用者の好みを聞きつつ食事提供。またおやつ選択メニューを実施し、利用者自身で好きなものを選んでもらえるようにした。入浴日ではない日曜日に、月に2回程度実施している。
- ・嗜好調査、入所時と6月に全員対象で実施。また利用者状況も日々変わるので、何か問題があればその都度改善につとめた。
- ・以前からの継続で全国各地の郷土料理を取り入れた。馴染みやすいものを中心に、主菜や副菜について各都道府県の献立を少しずつ盛り込んだ。季節に合わせた食材を使用して対応出来た。昨年度に加え、郷土料理の他にご当地グルメやB級グルメを取り入れた。好評であったものは通常献立に移行し、プラスで違う郷土料理やご当地グルメを取り入れた。

イ 食形態

- ・栄養ケア計画中心に、入所されている全員の方への栄養ケアマネジメントを実施。日々の変化や利用者状況を見て、その時々合った食事形態を担当職員、他職種と相談しつつ行なえた。
- ・体調変化や義歯の不具合等、少しの変化に気が付き早めに食事形態変更の対応を行なった。

ウ 食環境

- ・音楽の好みの違い、食事中のテレビの視聴について等を考慮しながら環境を検討した。
- ・食席については安全面と機能面を考えた。入院や転倒等で利用者状況の変化が多くみられて、その都度担当職員中心に検討を行なった。
- ・年明けのコロナ禍後は、食堂の使用が出来ず、ラウンジ2～3カ所と1階に分かれて食事摂取を行なった。生活の場自体が以前よりも狭い中での食事摂取となった。食環境としてはひとつの空間の中での全体の人数が減ったので、良いかと思うのが好みが分かれると思うので、令和5年度も様子を見ていく。

エ その他

- ・金額面では年々原材料費が高騰しているため、予算範囲内で提供可能なもの、利用者に提供したいものと折り合いを考えた。手作りのものを中心に既製品も取り入れた。
- ・外出機会がなくなり、行事も大幅に削減されたため、施設内でも楽しめるようにおやつレクを実施。焼きまんじゅうを毎月提供。喜んでくださる方が多かった。
- ・感染症対策を重点的に行なった。委託業者との連携を行ない協力して対応をした。
- ・食事をからめた行事を数回実施したが、感染症対策のために利用者と職員とが一緒に食事をする機会は作らなかった。食事場所を分けて提供した。
- ・利用者のご家族等との直接の面会が出来なくなり、楽しみが減ってしまう中でリクエスト献立や、新聞の折り込みチラシに掲載されている食事を取り入れて、献立がマンネリ化しないように工夫した。
- ・日々の状態変化を見逃さないよう、状態観察とともに、記録の確認を行なった。変化があれば早めの対応を行なった。
- ・利用者数が増えている中、なかなか一日で全員の利用者をみることは難しいが、食事時間以外の時間も使い、日々の変化を読み取れるようにした。
- ・1月のコロナ感染中は、朝食を簡易食対応にしたり、全体的な配膳下膳時間の変更を実施した。またコロナ後、状態変化がある利用者が多かったので、こまめな対応を行なった。
- ・10時おやつとしての牛乳、ヤクルト、ヨーグルトの提供、全経口摂取利用者に毎日提供することが難しく、水分補給も実施出来ないことが多くなったため、朝食に毎食ヨーグルトをつけて配膳するかたちで試している。献立上の変更も1月から牛乳の提供がなくなり、毎日ヨーグルト1つの栄養量なので、1月から全体の栄養量平均値が変わってきており、少し減少している。ゆうかりは引き続き10時おやつとしてローテーションで提供しているので、今後の対応について検討必要。

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
エネルギー(kcal)	1,576	1,575	1,585	1,568	1,568	1,575
たんぱく質(g)	59.9	59.2	58.4	59.2	59.0	59.7
脂質(g)	36.3	34.6	36.3	36.2	35.1	35.6
塩分(g)	8.9	8.7	8.7	8.9	8.6	8.6
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
エネルギー(kcal)	1,569	1,560	1,551	1,539	1,535	1,519
たんぱく質(g)	59.5	58.4	57.5	57.8	58.4	56.9
脂質(g)	34.2	34.2	31.9	32.4	31.0	31.3
塩分(g)	8.8	8.8	9.1	8.8	8.6	8.8

③医療・リハビリ

・各月状況

4月	胸部レントゲン(利用者)
5月	利用者採血
6月	聴打診
7月	深夜業従事職員健康診断
9月	コロナワクチン(利用者・職員)
9月～ 1月	生活習慣病予防健診
11月	インフルエンザ予防接種(利用者・職員)
1月	35歳未満職員健康診断
3月	コロナワクチン(利用者・職員)

・通院状況(延べ人数)

内科	外科	耳科	眼科	皮膚科	精神科	泌尿器科	呼吸器科	脳外科	整形外科	循環器科	婦人科	合計
42	7	4	2	10	23	38	0	4	46	8	3	183

(令和4年度 360名)

・施設内治療状況(延べ件数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1193	1512	1571	1700	1587	1568	1955	1917	1091	1063	1247	1615	18019

(令和4年度 14,568名)

・医師診察状況(延べ人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
135	103	148	111	137	129	117	128	102	17	97	155	1,379

(令和4年度 1,453名)

・入院状況

氏 名	病 名	期 間	病院名
T.T	胃瘻造設	2/14～5/19	北毛病院
K.M	肺炎、尿路感染症	4/3～5/9	北毛病院
M.N	尿路感染症	4/11～4/18	有馬クリニック
I.T	肺炎	4/20～5/30	北毛病院
T.T	脱水	4/20～4/25	有馬クリニック
G.H	肺炎	4/24～5/11	渋川医療センター
T.T	脱水	4/30～5/2	有馬クリニック
U.T	心不全	5/6～8/15 退所	北毛病院
I.S	蜂窩織炎	5/16～5/20	有馬クリニック
A.S	肝機能低下	5/21～6/21	北毛病院
T.T	脱水	6/13～8/24	有馬クリニック
K. M	脳幹出血	6/21～7/19 退所	渋川医療センター
F.S	肺炎	7/7～7/15	利根中央病院
S.H	心不全	7/12～8/1	北毛病院
F.S	肺炎	7/15～10/7 退所	北毛病院
H.T	右大腿骨折	7/26～9/27	関口病院
K.M	誤嚥性肺炎	8/1～8/25 退所	北毛病院
N.A	誤嚥性肺炎・肝機能異常	9/8～9/26	渋川医療センター
A.K	尿路感染症	9/18～10/12	北毛病院
G.H	誤嚥性肺炎	9/24～10/5 退所	渋川医療センター
I.Y	誤嚥性肺炎	10/7～10/19	利根中央病院
N.M	左後頭部外傷性クモ膜下出血	10/11～10/20	関口病院
A.R	腎盂腎炎	10/14～10/18	有馬クリニック
W.T	誤嚥性肺炎	10/17～10/24	有馬クリニック
M.N	誤嚥性肺炎	11/9～11/14	有馬クリニック
N.A	誤嚥性肺炎	11/11～12/1	渋川医療センター
I.Y	閉塞性動脈硬化症	11/17～12/16	北関東循環器病院
M.N	誤嚥性肺炎	11/29～12/15	有馬クリニック
N.A	誤嚥性肺炎	12/4～12/26	渋川医療センター
T.T	胃瘻交換・肺炎	12/7～2/6 退所	北毛病院

H.Y	左大腿骨転子部骨折	12/29～2/13	関口病院
M.N	肺炎	1/13～1/23	有馬クリニック
M.N	肺炎	1/25～2/3	有馬クリニック
N.M	脳出血・誤嚥性肺炎	2/26～3/ 退所	群大病院
S.I	蜂窩織炎・心不全	3/5～4/11	北毛病院
F.Y	肺炎	3/29～4/5	有馬クリニック

合計 36 件 （令和 4 年度 38 件）

・訪問歯科状況（延べ件数）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
10	15	13	12	14	36	37	35	27	8	34	26	267

（令和 4 年度 283 名）

④建物設備状況

- ・建物や設備の不備に対して、その都度業者に報告をし、修理を行なった。

⑤その他

- ・家族懇談会が新型コロナウイルス流行したため実施できなかったため、ご家族に手紙や写真を送り、利用者の方のカナンでの様子を伝えた。また、利用者の体調等の変化は電話連絡した。
- ・1 月に予定していた新年会は、新型コロナウイルス流行シクラスターが発生してしまったため、中止とした。

⑥年間計画

月	日	内容
4	21	春を楽しむ会（花見）
7	21	夏祭り
	29	納涼祭
9	28	敬老会
10	19	秋を楽しむ会
	20	創立 54 周年
11	20～23	チャリティ絵画展
12	21	望年会
	23	クリスマス集会
2	3	節分（豆まき）
3	3	ひな祭り
	22	お楽しみ会

(5) 短期入所事業

①重点目標に対する取り組み

- ・1月は、コロナクラスター発生のため受け入れを中止。利用中の方のみの利用となった。
- ・送迎時家族と多くの会話をすることで情報収集、情報提供を行なった。

②利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	41	36	29	24	25	23	21	20	27	7	26	32
利用率(%)	100	93.5	77.3	72.9	67.7	78.0	55.4	56.0	78.7	64.5	101.4	107.0

平均利用率：79.3%

2. さつき〔地域密着型サービス認知症対応型共同生活援助〕

(1) 概要

令和5年3月31日をもって事業終了。さつきは平成16年3月1日高齢者のための地域密着型サービスとして、住み慣れた土地で生活できるようにとの目的を持ち開設した。18年間事業を展開したが、福祉情勢の変化によりグループホームのニーズが減少し、新規入居の希望がなくなってきた。そのため、令和5年3月31日をもって事業終了とした。

(2) 年間入所・退所状況

退所日	性 別	実施機関	入所日	性 別	実施機関
4月23日	女 性	渋川市	6月8日	女 性	渋川市
4月24日	男 性	渋川市			
9月10日	女 性	渋川市			
12月9日	女 性	渋川市			
1月10日	女 性	渋川市			
2月20日	女 性	渋川市			
2月20日	男 性	渋川市			
2月21日	女 性	渋川市			
2月21日	女 性	渋川市			
2月28日	女 性	渋川市			

さつきの事業終了に伴い、在籍していた5名の利用者のうち4名が特別養護老人ホームカナン、1名がサービス付き高齢者住宅渋川ふるさとホーム渋川に移った。

(3) 重点目標に対する取り組み

①健康管理と身体機能・生活機能の維持に心がけ、より長く安心して生活できるよう支援する。

- ・1日3回のバイタル測定、排泄量・状態の観察等をし、体調不良の前兆を逃さず通院等早期対応に繋げた。
- ・嚥下機能低下に対する調理方法の工夫や低栄養リスクのある利用者について、管理栄養士と相談しつつ対応した。

②「ポジティブ」経験により認知症状の緩和と生きがいを支援する。

- ・日々の生活の中で、本人の能力に合わせて行なえる家事作業（洗濯物畳み、食器拭き、テーブル拭き等）を日課として実施した。
- ・本人が得意で楽しめる活動として、習字、創作活動、料理、農作業など、その時々状況に合わせて提供した。

(4) 利用者支援

①活動

ア 生活支援

- ・食器拭きや洗濯物畳み等、共同生活の中で自分の役割を実感できるよう支援した。

イ 創作・文化活動

- ・塗り絵、折り紙、書道等を実施した。できあがった作品は館内のギャラリーに掲示した。

ウ 地域活動

- ・運営推進会議を5回（5、6、10、11、2月）実施した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため面会を自粛。ウェブ面会については、希望者はいなかった。普段の様子を「さつき通信」として、2カ月に1回程度送付し状況報告した。

②食事

- ・栄養状態や嚥下機能に合わせ、主食の量や形態の調整を行なった。また、毎回の食事・水分摂取量の記録をし、1日の摂取量の把握をした。摂取状態に問題がある場合はその都度、訪問看護へ状況を報告し指示を仰いだ。

③医療

- ・群馬県高齢者入居者職員の発熱状況を6月10日まで群馬県へ毎日報告した。
- ・一日3回のバイタル測定や月初めの体重測定など健康状態の把握に努めた。
- ・医師と連携し利用者の栄養について血液検査（年に2回）を実施していただき、利用者の栄養値（アルブミン値）を確認。栄養状態をスクリーニングした。
- ・コロナウイルス感染対策を継続した。

④住環境・建物整備（さつき事業終了後の設備・備品）

- ・2階部分が職員寮になっているため、電気・水道・浄化槽は解約をせずに契約を継続。
- ・フレッツ光（インターネット回線）も契約を継続。
- ・ガスは、一旦利用を止めた。
- ・固定電話、携帯電話ともに解約。

⑤年間行事報告

月	日	内容	月	日	内容
4	15	花見ドライブ	10	27	秋を味わう会（会食会）
4	7	コロナワクチン接種3回目	11	20	インフルエンザ予防接種
5	13	クッキングクラブ	11	25	外部評価

6	29	胸部レントゲン	12	14	年末会食会
7	15	夏を味わう会	1	1	新年会
8	16	暑気払い	2	16	さつきありがとうの会

3. ゆうかり〔通所介護・予防介護〕

(1) 概要

4月時点では44%だった利用率も、7月には64%まで上昇した。しかし秋頃から施設入所や医療機関への入院が立て続けにあり、また新規利用もほとんど入らなかったため利用率は落ち込んでしまった。1月にはカナンにおける新型コロナウイルスのクラスター発生と、ボイラー故障により、利用を自粛する方が半数程度みられた。状況が改善されてからは今まで通り利用をされている。

(2) 重点目標に対しての取り組み

①利用率の向上

- ・担当国会議や電話連絡の機会を利用し、居宅支援事業所のケアマネージャーにゆうかりの宣伝を行なった。また今は付き合いのない居宅支援事業所にも挨拶のため訪問し、ゆうかりの状況を伝えた。

②個別対応の強化を図る

- ・職員会議等で余暇の過ごし方を検討し、レクリエーションなどに取り入れた。また今年度は利用者の方々から希望のあった「法人内売店の利用」と「マンナのパン販売」を実施した。どちらも定期的に行なうことができ、利用者の方からも好評をいただけた。

(3) 利用者支援

①介護

- ・担当ケアマネージャーのケアプランに基づき通所介護計画書を作成した。全職員が通所介護計画書の内容を理解し、支援の方向性を統一できるように努めた。また介護方法の変更などについては、その都度、ご家族やケアマネージャーに確認をして進めた。

②食事

- ・利用者や家族、ケアマネージャーに聞き取りをして管理栄養士と連携し、個々の嗜好にできるだけ合わせられるようにした。また、季節食や行事食も提供して利用者に季節感や食べる楽しみを味わっていただいた。

③医務・リハビリ

- ・新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、職員の入勤前の検温や体調チェック、手洗い、うがいを行なった。

- ・利用者や家族に対し、送迎前の検温をお願いした。また通所時にバイタルを確認し、利用者の健康管理に努めた。発熱などの不調が見られた場合には、家族に連絡をするなどの対応をとった。
- ・月 1 回の理学療法士が来園時に機能訓練のアドバイスをいただく。それらを参考にして、日常のレクリエーションの中にも集団体操などを取り入れて利用者の機能維持に努めた。

(4) 年間行事報告

開催月日	内 容
7 月 26、27 日	夏祭り
10 月 31 日、 11 月 1～4 日	りんご園ツアー 紅葉ドライブ
11 月 9 日	ゆうかり運動会
12 月 23 日	クリスマス集会（オンライン）
12 月 30 日	忘年会

(5) 年間利用状況

月	開所日	登録人数	実利用人員数	延利用人員数	稼働率
4	26	29	26	230	44%
5	26	35	31	250	48%
6	26	36	34	279	54%
7	27	37	34	313	64%
8	26	36	33	311	59%
9	26	36	33	289	55%
10	26	36	33	277	53.5%
11	26	36	33	270	52%
12	26	39	33	261	54.5%
1	25	33	26	182	38.3%
2	24	33	29	227	47.8%
3	27	33	29	240	44.3%
合計		419	341	3129	
平均		35	28	260	51.2%

※令和 4 年 12 月 31 日（土）～令和 4 年 1 月 3 日（火）年末年始休業日。

開館時間 9:30～16:30 (7－8 時間)

1 日の平均利用人数 8.9 人（1 日の利用定員 通常規模 20 名）

第 7 章 公益事業

1. ポパイ〔福祉用具貸与・販売事業〕

（1）概要

貸与事業・販売事業は、売上や利用者数は着実に伸びていたが、法改正に対応したサービス継続が困難なため、令和 5 年 3 月 31 日で事業を終了した。

（2）重点目標に対する取り組み

①（介護予防）福祉用具貸与事業

- ア 年間売り上げ目標 900 万円を達成できるようにする。
 - ・事業終了のため、後期は契約利用者を他事業所へ移管し終了した。そのため、目標は達成できなかった。
- イ 契約獲得者数 70 件にする。
 - ・事業終了のため、新たな営業活動は行なわなかった。また、後期は利用者を他事業所へ移管したため、目標は達成できなかった。

②（特定）福祉用具販売事業

- ア 年間売上目標 900 万円を達成できるようにする。
 - ・事業終了のため、目標は達成できなかった。

売上目標

（3）年間売上実績

売上高	貸与事業	販売事業	売上総利益	貸与事業	販売事業
令和 4 年度	7,059	7,199	令和 4 年度	2,996	1,515
令和 3 年度	8,093	8,974	令和 3 年度	3,515	1,829
差 額	▲1,034	▲1,775	差 額	▲519	▲314

単位／千円

2. シオンの丘〔居宅介護支援事業〕

(1) 概要

開所 5 年目に入り、2 名職員体制で事業展開を図った。今年度もコロナ禍により様々な制約の中での業務遂行であった。ただ、新しいサービス事業所との関係構築や、地域包括支援センターと連携して困難事例に取り組み、担当件数は順調に増やすことができた。障害者福祉制度に精通している事業所の認知を一段と高めることができた。

(2) 重点目標に対する取り組み

① 事業所運営の安定を図る

- ・今年度から 2 名体制事業所運営になり、担当件数も順調に増やすことができた。
今後は 3 名体制に伴う特定事業所加算の取得を目指す。

② 複雑、困難なケアマネジメントに対応する

- ・地域包括支援センターと連携して困難事例に取り組むことができた。

③ 将来を見据えた新しいサービスを検討する

- ・緊急ショートステイや買い物、ゴミ出し支援などインフォーマルなサービス実現のため情報収集を行なっている。

(3) 担当利用者数推移

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
要介護	36	40	47	52	53	59	64	70	67	65	65	65
要支援	6	5	8	8	8	8	8	8	9	9	9	9

※累計契約利用者数 201 件（令和 5 年 3 月末現在）

第 8 章 収益事業

1. オリーブ

(1) 概要

売り上げは目標額よりも約 2,811 千円少なく達成率は 91%であった。そのため法人への繰り入れ額は目標よりも 70 万円少ない 180 万円となった。

(2) 重点目標に対する取り組み

①収入 3,500 万円、収支差額 250 万円を達成する

- ・売上げ増につながる新しい事業・サービスについて、他法人の取り組みを調べることに留まり、具体的な取り組みにはいたらなかった。
- ・売り上げの目標額に対する達成率は約 91%であり、法人への繰り入れは 170 万円と達成率は 72%であったが、今年度備品等の購入をしなかった分、法人への繰入は 800 千円増加した。

(3) 年間売上実績（前年度比）

単位：千円

	売上高	法人への繰り入れ
令和 3 年度	32,189	1,800
令和 2 年度	32,622	1,000
差 額	－433	800